

# 神奈川縣教育

昭和七年五月廿五日發行

第二八百八十五號

大正  
33

## 懸賞論文募集

口 繪  
卷頭語 「時事偶感」

山崎教育代表を送る……………	角田忠七郎…三
内彈三勇士の實況を語る……………	陸軍憲兵大尉 角田忠七郎…三
生活から生れた文……………	安室 勇…三
神奈川縣郷土史の歌……………	石野 瑛作歌…七
惱みつゝ行く……………	内田 武雄…六
國史の本質的學習管見……………	加藤 正…三
果樹園に就いて……………	飯田 義治…四
精神薄弱兒童養護施設について……………	篠崎 量平…四
俳句を通じて郷土を見る……………	高橋 南柯…三
想 華……………	井上 廣…五
所 感……………	與瀬町組合長 井上 廣…五
彙 報 (教育會報—教育會代議員會議狀況—教員互)	報 (助會—愛甲郡教育會總會狀況—叙任辭令)……………六

神奈川縣教育會

Kodak Gray Scale

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



© Kodak, 2007 TM: Kodak

Kodak Color Control Patches

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

© Kodak, 2007 TM: Kodak

Inches 1 2 3 4 5 6 7 8  
cm 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19

# 茗溪會推薦

全國小學校長並に  
教職員必讀の名著

# 道德改造論

四百二製スオロク總判六四  
圓一價定 本美頁十

★ 著 村 杏 田 士 ★

國定の高等小學修身教科書全巻を檢討して之に批判を加へ、著者の道德論を主張したものである。著者の道德觀は現在の教科書が説く所と其の建前が違つて居る。勿論正面から反對し之れを顛覆しようといふのでなく、國定教科書が志して到り得ないものを、その道德的根柢及び訓練方法の改造によつてなさうとする。即ち著者は教科書に於て甚しく缺けて居る社會性の高調、情意的陶冶の重視、社會性と個人性との徹底的調和及び功利思想の排除等を立論の骨子とし、表面穩健、然も實は痛烈に批判し示唆して居る。現在の教科書を用ゐたとしてもこの一本を理解し得た人ならば大なる誤りに陥らぬであらうし、一般社會人の高級な讀物としても推奨に値する。

## 人生論

古い哲學は無能となつた。人生を再認識せよ。それが現代の急務だ。生活部面を統一せよ。それが我々の急務だ。本書こそ實に新時代人必讀の人生論だ。

批判總クロオス裝  
百四十頁美本  
定價一圓

## 現今教育學

### の主問題

近世教育學の誤謬を分析指適し、個人的教育思想を排し、社會教育學こそ新教育學であるとする著者の立場から、現今教育學の主問題を論評せる快著。

好評 五版

定價一圓

版五十評好大

五町番一町麴京東  
房書一第  
三二二四六京東替振

## 昭和七年度

### 神奈川縣教育關係者職員錄

實費送料共

金五拾錢

例年の通、昭和七年版を編纂し、本年七月下旬配本の豫定であります、製本部數の關係もあります故、御入用の向きからはなるべく速く御注文の申込をお受け致したいと存じます。

前年は四百部餘分に製本致して置きました處、第三學期には全部品切れとなり其の後の注文には遺憾ながら應じ得なかつた事から本年は可成申込期限内に洩れなくお願する事に願ひたいと存じます。

申込所は左記へ

神奈川縣廳教務課内

神奈川縣教育會事務所

## 世界再遊の御挨拶

神奈川高等女學校長 佐藤善治郎

私は大正十三年に外遊しましたが、今回又出懸けます。それが私としては極めて必要であると思ふからであります。私は自分の事業に巨額の寄附も受けました。そして入學者も學校其物を信ずる外に私といふ個人も考へて居られると思ひます。公立學校に従事すれば、功成り名遂げて身退き、閑雲野鶴を友として安樂な餘生を送る事が出来ませんが、私の境涯ではそれが出来ません。斃れるまで働かねばならぬと思ひます。それには常に相當に修養する覺悟が必要です。學校に蟄居して忙殺されるよりも、時としては海外視察するのが、種々の事情から見ても適切な方法と考へたからであります。

道順は六月二十日夕六時横濱解纜の米國船プレジデント・ウキルソン號に塔じ、神戸を経て上海で新戰場を見ます。香港マニラを経て蘭領東印度の諸港を経て、スラバヤに上陸し、バタビアからシンガポールに出でて七月十三日大阪商船會社船ハワイ丸に乗る。コロンボからあの荒い印度洋を斜に切つてアフリカ東海岸の中央なるモンバサを始め、五、六の港に寄港して黒人の本場を訪ひ、喜望峰を廻つてケープタウンに上陸し、それから十五日かかつて南大西洋を横斷してアルゼンチンのブエノスアイレスを見、ブラジルのサントス港に上陸するのが九月五日。サンパウロで數萬の同朋の天地を尋ね、

リオデジャネーロから船でアマゾンを溯ります。それからポルトガルのリスボンに渡り、スペインのカデズ港（コロンブスの發船地）ジブラルタル・コルドバ・マトリット・ボルドー・オルレアンを経て巴里に入り、倫敦で二、三十日間學校參觀します。これが主要目的であります。それからノルウエーのベルゲンに出で、スカンデナヴィア半島を横斷してフィンランドに出で、レンングラード・モスクワを経てシベリア線で歸朝。それが十一月末の豫定。舊遊地は倫敦・巴里だけです。赤道を通過すると四回、行程約四萬マイルとなる。

歴史上の趣味から見ると、三、四百年葡、西の二大強國が東洋に進出し、我國に鐵砲や天主教を傳へたその鋒に逆行するのです。一四四八年葡人バスコダガマが喜望峰を廻つて印度に達せし以來、明治二年スエズ運河開鑿まで通つた東海道舊道を通り、葡西の殖民地南米を見てその本國に入る事になり、九州の豪族大友の使者や、伊達正宗の使節の足跡を今明らかに知る事が出来るのであります。それでは往つて参ります。各位の御健勝を祈る。

佐藤善治郎

南洋阿弗利加南米及歐洲各國ニ於ケル女子中等教育ニ關スル調査ヲ囑託ス

昭和七年五月二十五日

文部省

郷土教育 産業教育  
懸賞論文號

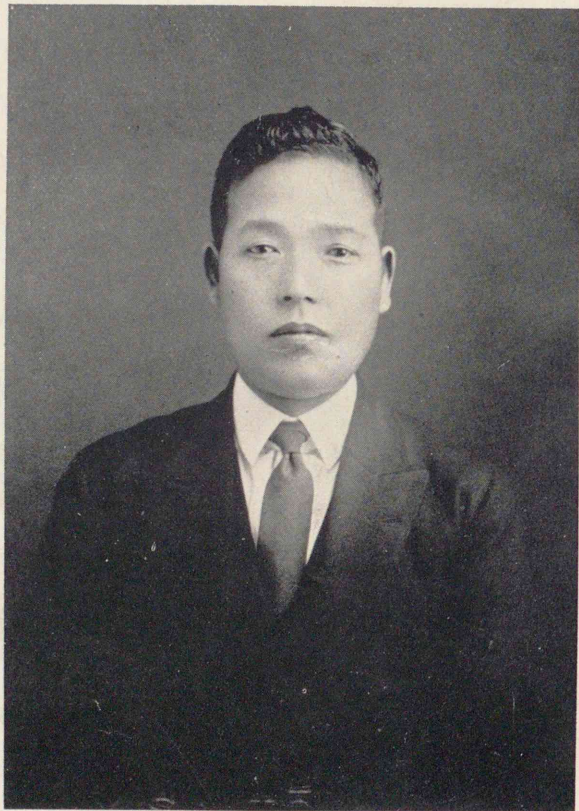
本會、昨年、郷土教育、産業教育に關する二大懸賞論文を募り、その中審査  
入選せる六大雄篇を輯めて爰に文集とせり。

篤學なる青年教育學者等の雄渾なる文を通してその剴切博大の知見と、眞摯  
多年の經驗とにきかば、必ずや吾人を啓發して與へらるゝ所、益多かるべき  
を信ず、

希望の方には申込まれ次第頒布す。

一部送料共三拾四錢

神奈川縣教育會



世界新教育聯盟會議出席代表

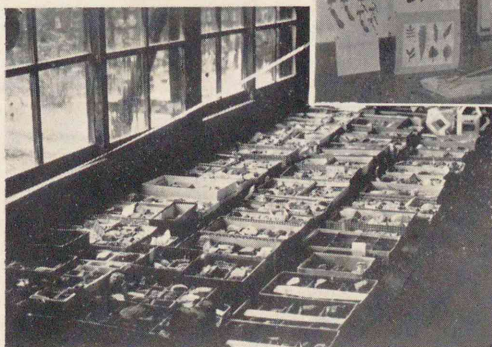
山崎博君



(一) 會覽展科理校浦長郡浦三



(二) 部の物植



(三) 部の物礦

## 懸賞論文募集

論題 滿蒙に對する我國の教育方策を論ず

- 一、紙數、四百字詰原稿紙百枚内外
  - 二、締切、昭和七年十月末限
  - 三、發表、昭和八年一月中
- 應募資格 本縣内教育關係者に限る

第一等 金 百 圓  
 第二等 金 五 拾 圓  
 第三等 金 貳 拾 圓

審査 外山學務部長を委員長に本省及本縣教育中樞の人物より成る審査會に依囑する筈。

暗雲低迷して征馬胡邱に嘶く滿蒙の天地は、過去幾萬の生靈と、巨財とを犠牲にせしことぞ。然るにも拘らず、久しく綠林匪賊の巢窟に委かせたことは、漫りに天與の惠澤に背戻し人類の福祉を覆すものであつた。而も經濟に、國防に、我が民旅の膨脹に、新文化の建設に、所謂我が生命線たる新滿洲國の皇道精神と、その資源の開發とは、果して何人の手によつて完からしむるを得べき乎。

今哉、世界の視聽は一齊に東帝國の一舉手一投足を飛耳長目しつゝある、世界はあげて敵なるか、將、味方なる乎。

ともかく、將來の我が民族が、滿蒙の野に、勇敢に飛躍と苦闘とを續けざるを得ぬ運命に置かれざるを知る時、我が現下教育の革新は爰に痛切に切迫せるものがあるが如く、則ち大膨脹的日本として、大國民的資質の上に、劃期的發展向上の何者かを齎すべく奮闘すべきは言ふを待たない、これこの論題を採擇した所以の梗概である。

因に本縣教育會が、昨秋甲府市に於いて開催せられた關東聯合教育會議案として提出し可決せる者あり参照のため掲載す。

### 答 申

我國人口増加ニ伴フ移植民事業ハ朝野多年ノ輿論ニシテ又現下焦眉ノ問題タリ、蓋シ之ガ解決ハ百年ノ後ニ待タサル可カラスト  
スルモ斯ノ如キ國運ノ進展膨脹ヲ促ス國策ニ對シテ國民教育上無關心タル可カラザルハ言フヲ須キス、而モ世界列強ノ夫ニ比シ  
テ我海外移植民ノ頗ル不振ノ狀態ニアルノミナラス寧ロ幾多失敗ノ事實ヲ考フル時國民教育上大ニ反省セシメラル、處勢カラサ  
ルヲ認メ左記事項ノ徹底ヲ期ス

一、小學校各種中等學校並青年教育ニ於テ海外思想涵養ニ一層留意スルコト

二、國際教育、勤勞教育及體育ヲ一層重視シ我民族ノ世界的使命ヲ自覺セシムルコト

三、常ニ在外及植民地同胞ニ對シ同情ト理解トヲ持チ教育上公私各種便益ノ寄與貢獻ニ努力スルコト

昭和七年五月二十五日

神奈川縣廳内

## 神奈川縣教育會

## 時事偶感

瀧澤 曲 南

一、滿洲建國といひ上海事件といひ乃至は犬養首相の遭難といひ、事局の重大性は内憂外患ともに愈々深刻を極めて居る。支那問題は纔かに小康を見せて居るが、日本政局の立直しは今が序幕である。今後來るべき難局と障害とは豫測の出來ぬものがある。但し何時の世にも艱難汝を玉にする、殊に自から時た種は自から荊らねばならぬ、此重大なる事局に直面し、我國民は必ずや覺醒せねばなるまい、そしてより善き憲政の淨化を見、より善き君民同治の實を擧げ、眞に皇道の世界化を實現し得べき光輝ある日本たらしめねばならぬ。

二、それにつけても教育は總ての基本なりとの原則を忘れてはならぬ、事局益々重大にして教育者の天職は益々重きを加ふる事を自覺せねばなるまい。そして教育其ものゝ行詰りを打開し、今日の如き重大なる事局を招來したる教育上の責任感に見て、教育の邪道と墮落を救ひ、總ての基本としての眞の教育を立て直さねばなるまい。

三、教育は時代に順應すべきは勿論である、嘗て圖書手工の教育は教育上最も重大視されて、其研究一時旺盛を極めた事もあつた。今又公民教育と郷土教育振興の聲喧しく、各方面とも殆んどそれに傾注するが如き觀もある。今後は必ずや生命線としての滿蒙教育、さては憲政淨化を中心とする政

治教育施設も盛んに勃興すべきものと信ずる、是れ即ち時代の要求に外ならぬからである。

四、但し時代の要求に應ずる教育と教育根本義とは自から相違がある、殊に時代に順應するに急にして教育根本義を閉却するが如き事があつてはならぬ。若し教育根本義を忘れて時代の必要に應ぜんとせば、必ずや時代の要求に副はずして却て一層重大なる結果を將來する事になるであらう。然らば其教育根本義とは何であるか、云ふまでもなく人間教育であり人格教育そのものである。

五、今春徳富蘇峯翁古稀祝賀に際し、記念展覽會があり記念講演が催された。その講演會席上、少壯史學家として令名噴々たる平泉博士の口から素晴らしい發表があつた。それは歴史の意義についての主張で、端的に之れを云ふて見れば「歴史は人格の記録である随つて歴史ある所革命なく革命ある所歴史なし」と云ふ事に歸着する。再説すれば世界の歴史中日本歴史が一番歴史としての價値に富むと云ふ點と、今一つには歴史を讀み且つ書く者は徒らに知識慾の満足を主として無價値な事蹟の研究に墮するなく、宜しく道徳人格を主として検討し顯彰せよと云ふ結論となる。洵に至言と云ふべく歴史につき斯くの如く明確に斯くの如く徹底した説をなす學者は從來殆んど見當らなかつた。

六、そこで人格を修養し品性を陶冶する學科は勿論修身科に在る事は云ふまでもないが、歴史が其補助學科の最も主要なるものである事も自明の事實である。その校の教育價値の發揚する否とは一つに此學科の研究指導體験施設の如何による、何時の時代にも苟くも此二科には中心學科としての威嚴と神聖とを失はぬ様最深の注意を拂ふべきである。

## 山崎教育代表を送る

### その使命

今夏、佛國ニースで開催せらる、世界新教育聯盟主催第六回國際教育會議に、我國教育代表として爰に山崎博君の渡歐をみたことは吾人をして異常の欣懷を覺えしめる者が數々ある。

此の教育會議たるや、その産婆役ともみるべき故澤柳政太郎博士を初頭に、入澤博士、小林教授等の出席をみたのであつたが、今學は日本新教育協會の名を以つて加盟しての我國初めての輝しき教育代表なのである。こともおろかや、日本教育の大精神を全世界に顯揚すべき堂々たる教育使節である、其の任や、重且大なりと謂はざるを得ない。

全世界の碩學を集めた殿堂に立ちて、日本教育精神と其の教育の實際的創見とを披瀝することは、世界の強班に伍したる我、東亞の覇權を掌握せる我、世界無比の皇室と祖宗の百姓とを有する我、この我が民族精神の高遠悠久なる理想とに培はれ來れる三千年の我が教育精神が、如何に清く、正しく、朗かなる者であるかを世界に知らしめ、國際正義の儀表を樹立して、和平易順、全人類の幸福と發展をリードする天意に副ふべき者であることを知らしむる所以である。

我には傳統三千年の國體が嚴存し、上には崇嚴六合を照鑑し給ふ一系の天皇のおはしますあつて、下には忠魂義膽の大和民族がある、それは正しく泰西の科學と文化を超絶し、東西の習俗から虚脱せる、其の體や玲瓏として演ず可らずして其の氣や浩々として奪ふ可らざる者ありてひそめり、斯の道、斯の徳、斯の哲理、斯の教育の要道こそ實に大日本教育主義である。されば吾が教育使節たるもの宜しく吾、學ぶべくして彼を導き、彼、教ふべくして吾を啓くはよし、然れども漫りに泰西哲學の糟粕を嘗めて、荐りに彼に模倣するを以つて世界の思潮に順應すとなすが如くんは、此れ徒らに彼の後塵に浴して實は尙學の愆をおかすの嘲をかふに過ぎないであらう。

つらく、我が學界の風潮をみるに概ね輸入學説を標榜して規範を異國に仰ぎまねる者、比々として然らざるはない、特に教育使節たる者この點に心すべきではあるまいか、惟ふて此に到ればその使命の尊くも又嚴そかなるかな。

### その後援

吾が山崎代表後援のため公私の各種團體は勿論、知人同窓友僚悉く起つて其の聲援に走つたのであるがその烽火を眞先にあげた者に素描同人がある、同人が必死の運動に日夜の寢食を廢したことは其の統帥格たる山崎君に奉仕する忠實の表現として洵に床しさを感ずる次第である。

就中、川崎市各學校長が一致協力八方に奔走して機會ある毎に山崎君のため誠心誠意を以つて後援事業に努めたことは最近稀にみる紳士的態度として流石は教育家の面目を躍如たらしめたものである。延いて吾人は山崎其人の徳望をも俦ばざるを得ないであらう。

この時に際し縣教育會は共にその行を壯ならしめ、その後援にも亦大いに翼賛の意圖を有するものから海外教育狀況視察調査を同君に依囑したのである。

### その覺悟

今茲に本縣がこの教育使節を送るに一語の念ずる者は、山崎代表派遣を以つて始めにして終たらしめてはならないことである。吾人は將來、屢次、斯の如き壯舉を期すべく縣下有爲の少壯教育者に一段の奮勵を望んで止まないものである。

而して是が後援についても、範を今次數々の美學に倣ひて更に一層廣く一層大いにせんことを誓ひ、縣教育會も亦十善の援助をなし得るよう、其基礎を尨大たらしむることに宜敷今後に備へることを怠らないことである。

終りに葎み、山崎代表の健康と長途の平安とを祈り、名實共に完うして、永遠に本縣教育史上にその業績を印せんことを待望して止まない、首途を祝して聊か餞すと云爾。(Y S 生)



## 肉彈三勇士の實況を語る

陸軍憲兵大尉 角田忠七郎氏講演

### 一、緒言

昭和七年二月二十二日拂曉五時二十分上海郊外廟巷鎮に於て點火したる爆薬を身に抱いて突進し我が身諸共敵の鐵條網を粉碎致しました肉彈三勇士即ち久留米工兵第〇〇〇隊第〇中隊作江伊之助、北川亟、江下武二の各一等兵の行動は實に我軍人精神の精華であり大和魂の權化でありますとして今や晉に全國民の感激を揺り動した許りでなく遠く海を越えて全世界の人々をして驚嘆の眼を見張らしめたのであります尙之が爲に歐米の列強をして日本の恐るべきを覺らしめ其の國策の變更を餘儀なきに至らしめたと申すも敢て過言ではないと信ずる程であります蓋し此の如き軍人精神は我が日本に於ては獨り此の三勇士のみに止まらず其の所爲にこそ差異あれ恐らくは我が帝國軍人否全國民の等しく有するものであつて之れあるからこそ今日世界を對手としても微動だにせざる國勢を築き上げ滿洲に將又上海に帝國軍の絶大なる威力を發揚したのであります更に之亦我が國民古來の傳統的精神であり我々の先輩が日清日露の二大戦役に大勝を博して僅に半世紀に満たざる間に東洋の一小弱國より世界の最大強國に列せしむるを得た根本であります即ち此の精神は悠々三千年の久しきに亘つて我が全同胞の血管の中に脈々として流れて居ることを信ずるものであります故に一度此の壯烈なる三勇士の報國內に傳はりまするや逸早く映畫に演劇に將又軍歌に民謡に脚色作曲せられて彌が上にも我國民の人氣を煽り絶讚的



となつて居る次第であります。依つて此の機會に於て其の真相を究め、其の實況を偲びて英靈を弔ふは誠に意義深きことと存するの時機にして、私も亦嘗て工兵に籍を置き同じ様な鐵條網破壊の經驗を有するものであります。此の際特に調査したものを簡單ながら一通り申し上げます。

## 二、肉弾の爆破

上海西北方廟巷鎮附近に於ける支那軍は昭和七年一月下旬より約一ヶ月の日子を費して堅固な陣地を構成したのであります。即ち其散兵壕は概ね我が國で申す掘擴散兵壕の程度であつて深さ約一米七〇〇、纏普通の人間の高さ、凡そ五尺三寸と致し米突に換算すれば一米六七寸であります。故に人が立つて歩いて十分全身が隠れるわけであり、そして之れ位の散兵壕になると其の上幅は普通一米五〇〇、纏位になるのであります。支那軍の作つたものは非常に狭く一米餘りの様であります。之は何所迄も隠れることを第一とし、壕の上に戸板や木板或は鐵板を載せる爲であつた様であります。尙ほ部落の一部には「コンクリート」で堅めた堅固な陣地もありました。そうして又其の前方二十乃至三十米には杭の高さが三米幅四米程の鐵條網が間隙なく張り廻され、然も其の鐵條は皆刺がある、有刺鐵線で縦横無盡に張られてあつたのであります。それで歩兵が眞しぐらに突撃して参りますと此の鐵條網に引き掛り容易に進むことが出来ず、殊に刺のある鐵線であるから幾ら強い日本兵でも痛みを感じ前進が遅れます。其の遅れて多くの兵隊が重り會つて困つて居る時に彼地此地に備へてある機關銃で皆殺しにして仕舞ふのであります。然らば此の機關銃を打ち壊せば好いだらうと思はれますが之は又特に鐵板や「コンクリート」或は煉瓦等を以て最も堅固に構築してある許りでなく、銃の口だけを出して後は絶対に隠してあるので、何處にあるか容易に發見することが出来ません。それで何うしても此の鐵條網を破つて易々と通れる路を開かねば歩兵の突撃は出来ないのであります。で若し之を砲兵の力で以て破壊し様としましたら凡そ三千六百發の彈丸を使はなければならぬのであります。然も當時此の方面の砲兵行機からの爆撃で破らうと思つても二百回以上の爆撃投下をやらなければいけないのであります。然も當時此の方面の砲兵は甚だ少なく、砲彈の用意も手薄であり又飛行機の爆撃も多くはなく、そう使ふわけには参りませんので廟巷鎮奪取の任務を

持つた下元少將の率ゆる混成團は大變困つたのであります。其處で最後の手段として工兵の爆薬を以て鐵條網を破壊することになつた次第であります。斯くて二月二十一日の午前十一時工兵〇隊長松下大尉に對し

「工兵〇隊は一部を以て左翼方面森田〇隊正面。主力を以て主攻方面碓〇隊正面の鐵條網を破壊し突撃路を開設すべし」

との〇團命令が下つたのであります。其處で松下〇隊長は當時〇隊で持つた爆薬量を考へて森田〇隊正面に三個碓〇隊正面に五個の突撃路を作ること決心し、二十一日午後五時麥家宅に第〇小隊長大島少尉、第〇小隊長東島少尉及器材係下士官を集めて先づ〇隊の目的任務を示して準備を命じたのであります。それで各小隊では所要の鐵條網破壊筒を造り始めました。元來此の破壊筒は正式のものであれば中徑約十〇、長さ〇米〇〇、纏の鐵管の中に爆薬を一杯詰めたものを鐵條網の幅に應ずる様繋ぎ合せて即ち幅五米の鐵條網であれば〇本、十米の時は〇本を繋ぎ鐵條網に差し込で爆破するのであります。然し其時は此の様な正式な破壊筒はありませんでした。それで之に準じて〇隊の携行した方形黄色薬と云ふ爆薬を鐵條網の幅だけ長く並べ、其の上下に青竹を締め括つて破壊筒の様なものを作造し、之に導火索と申して口火の索をつけ、之を三人が一組となつて鐵條網の前迄持つて行き、地面に沿うて鐵條網の中に差し込み導火索に點火して退くこととしたのであります。然し之が爲に點火する迄は何うしても敵に發見せられない様にしなければなりません。若し發見せられたが最後直に敵の射撃を受け、殊に距離が近いので直ぐ燈される事は明かであり、それで暗闇を利用して然も最も靜に音のしない様に匍匐前進しなければなりません。然し敵前僅に二、三十米と云ふ所では之が最も難しく、仲々容易なことではありません。であるから之を行ふには決死の覺悟を要するので〇隊長松下大尉は非常なる決心の下に午後六時各〇隊長以下破壊隊全員を集めて〇隊命令を下した。後細かな訓示を與へ、尙ほ特に陣中僅に手に入れた支那酒を酌み交し涙を拭ふて、袂別の心情を披瀝したのであります。蓋し此の際に於ける松下大尉の心中たるや、果して如何でありましたらうか。凡そ普通の人間でも上官として多數の部下を決死の戦線へ送るのであります。殊に部下一同が君國の爲に勇躍死地に就かんとする其の心情を想ふと

き涙なきを得なきを得なかつたでありませう殊に松下大尉は學校當時私と同窓同中隊であり同じ工兵であつた關係上此の様な演習を共に度々行つて居るのでありまして親しく大尉を知る私と致しましては人一倍多感多情なる彼の心を察し萬感胸に迫るを覺えるのであります、殊に決死隊員一同に對し背囊入組品や身の廻りの整理をなさしめ後事を戦友に託して出發せしめたること等は全く上官の心盡しの程も思はれ正に此の上官にして此の部下ありと感嘆せざるを得ないのであります。

時宛も陰曆十七日の月は濃霧に覆はれてほの白く勇士等の被る鐵甲を照らして居りました此くて主攻撃方面隊○隊正面に空撃路の開設を命ぜられた東島第○小隊は淡き月影を踏んで靜肅行進を續け廿二日の午前三時卅分金馮宅前面に到着致しました、そして直に村落を出で敵前約五十米突の地點に破壊の爲の據點を作りそれが出来るると此處から前に申し上げました様な隱密前進を始め靜かに地上を匍つて進んで行つたのであります何しろ敵の直前のことゝて忽ち敵の發見する所となり猛烈な機關銃の一齊射撃を受けたのでありますこれでではならぬと土囊と申しまして彈除に幅三十纏位長さ約五十纏の麻袋の中に土を一杯入れたものを打伏になつて居る頭の前に置いて身を隠しながら之を前に轉ばしては前進しましたが敵の猛射は依然として止まないの煙幕を作り始めましたそれが最初は一寸敵の眼から隠す様でありましたがそれも次第に薄くなり又々雨の様な敵彈を浴びるに至りました夫れに彼れ是れる中には残月の影が淡くなり東の方が明るくなつて参りましたもう夜が明けたなら駄目であります更に總攻撃の指定時間たる五時三十分は刻々と迫つて参りました、こうなつてはもう一刻も猶豫が出来ません東島○隊長は蹶然として強行前進を命じましたそれで第○班長たる馬田軍曹は部下と共に猛然として半ば立ちて前進したのであります第○班三組中の第一組三名中の一名は噎れ一名は重傷を負ひ残る持田一等兵は青竹の爆藥筒に點火して單身之を擔いで走りましたが之亦十米許りで惜しくも噎されて仕舞ひました次の第二組も亦一名は噎れ一名は前盒に敵彈が命中した爲に自分の持つて居つた彈藥が爆破して破壊筒の上に打倒れ第三組の三名亦將棋倒れとなつて第○班三組共壯圖空しく挫折するに至つたのであります茲に於て○隊長は涙を絞つて

叫びました。

「最後の強行破壊！」

全く血の慘む様な悲痛の叫びであります、すると據點で今か〜と待ち構へて居つた第○班内田伍長の指揮する作江、北川、江下、の第一組は此の聲に應じて四米突の青竹破壊筒の導火索に點火し北川を先頭に江下が中を作江が後端を引擔いで據點から飛び上りばらばらと突進したのでありますそして破壊筒を鐵條網の中に投げ込みました。

忽ちにして起る大爆音

さしに敵が命と頼む鐵條網も完全に破壊せられて立派な突撃路が出来上りました勿論此の如き爆破の際には前にも申し上げた様に原則としては破壊筒を鐵條網の中に挿入して點火するやさつと身を引く様になつて居るのでありますがつつと前からの状況を視て居つた三人は鐵條網に挿入したのでは間に合はず最初から點火した爆藥と共に飛び込んで仕舞はねば絶對に成功しない。だから止むを得ず自分の肉体を爆藥と共に爆破して鐵條網を破壊しやうと堅く申し合せて居つた様であります、それに三人で擔いだのは先頭の北川が噎れても次の二人が踏み込み二人の中更に一人が噎れても最後の一人は必ずや鐵條網まで到達して爆破出来るると云ふ必ずや死ぬだらうが必ず成功すると云ふ戰術を考へて居つたのであります、そして先頭の北川だけは傷いて一度三人は倒れたが再び起き上つて三人共鐵條網に飛び込んだのであります、それで大爆音と共に三勇士の肉体は八、九米突の高さに舞ひ上つて粉微塵となつたのであります。

猶此の状況を視た後第二組である北村、梁瀬、杉本の三、一等兵が又も導火索に點火して青竹破壊筒を引擔いで突進し鐵條網にたゞきつけ直に身を引いた際間髪を入れずに第二の爆音が起り又も一突撃路が出来たのであります此の第二組は全く天祐と申しませうか三人共助かつたのであります蓋し此三人は最初から飛び込んで仕舞はず破壊筒を投げ込むやさつと身を退いたからでありませう更にもう一つ其の後第○班長であつた馬田軍曹が自分の指揮する破壊班が三組共不成功に終つたのを遺憾とし自ら自分の頭に被つた鐵甲に手榴彈を打ちつけて點火した彈を敵兵に投げつけ之を怯ませた隙に單

身鐵條網に飛び込み鐵條鉄を以て鐵條網を破り一突撃路を開いたのであります、其の勇猛豪膽なること又驚く許りではあまりせんか。

三勇士を始めとして北村一兵等の第二組及び馬田軍曹の忠烈悲壯なる働きに依て碇○隊の正面に三つの突撃路が開かれ茲に於て豫定の通り午前五時三十分を期して下元○團の總攻撃は開始せられ碇○隊は天にも轟く歡聲を擧げて敵陣地に突入し難なく廟巷鎮の陣地を占領するに至り○團の戰鬪をして大勝利に導き萬歳の聲は天地に響き渡つたのであります、蓋し上海郊外に於ける我が軍總攻撃は此の忠勇なる勇士等の行動に依て一段と有利に展開することが出來たのを確信致します即ち三勇士の忠烈なる壯舉は單に軍人精神發揚の極致に止まつた許りでなく實に絶大なる殊勳を現し又となき武功を擧げたのであります。

### 三、銃後の赤誠

之等勇士の行動は固より三人の盡忠報國溢るゝが如き熱情より發生したるものに外ならずと信じますが尙一面に於て其悲壯なる決意を促し又は益々決心を鞏固ならしめた或るものを見逃すわけには参りません蓋し滿洲事變勃發以來幾多忠勇なる兵士の出發若くは通過毎に全國津々浦々に萬歳々々の歡呼を以て送る國民の聲援に依て出征兵士等は果して如何なる感懐に打たれるのでありませうか、必ずや此の後援に報ゆる爲其の期待に副ふ爲心に期するものがあると信じます況して人一倍愛國の熱誠に燃ゆる勇士等は之に感激して心中深く決する所があるのは疑ひのない事實と存じます即ち現に之等勇士の一人江下一等兵に絡る「エピソード」が軍事美談として「發見せられたのでありますそして之は三勇士の發表と共に「軍國挿話の少年」として新聞紙上に掲載せられましたので大体御承知のこととは存じますが更に憲兵隊に於て調査したものを基礎として御紹介申し上げ度いと思ひます。

時は昭和七年二月五日午後九時二十分九州本線久留米驛頭には上海方面の征途に上らんとする工兵第〇〇〇隊の精銳を送る萬歳の叫歡呼の渦巻に満たされて居つたのであります其の時十二、三歳になる一人の少年が多くの人の間を潜り抜け

一番前に出て日章旗を打ち振り盛に萬歳を唱へて居りますと何氣なく直ぐ前を通つた一人の兵士に對し

「兵隊さんチャンコロ一人位は殺して歸らねば駄目だぜ」

と申しましたすると其の兵士ははたと立停つて少年の手を固く握り

「よく云つて呉れた君の言葉は決して忘れぬ俺は生きて再び歸るとは夢にも思はぬ君も大きくなつて御國の爲に働いて呉れ」

と云つた相であります此の兵士こそ實に江下一等兵其の人であり彼の壯烈なる爆死は既に此の時年少なる一學生の發した激勵の言葉に依て深く期した心の程が偲ばれるのでありますそうして異常なる衝動を受けた江下一等兵は其の少年の住所を聽いて書き残しホマレの煙草に五十錢銀貨を添へて差し出し

「僕は戦争に行くのだからお金はいらぬ之は些少だが小遣錢の餘りだ學用品代にして呉れ、又此の煙草は二本吸つて後十本残つて居るがお父さんに上げて下さい」

そして最後に銃劍で左手の小指の先を切つてハンカチに血を染め様と致しましたが血が仲々出ませんので更に右手を以て絞り滴る血潮でハンカチを染め真中から二つに切つて

「此の半分は僕の形見だ」

と云つて少年に渡したのであります之に依て見ましても江下一等兵が少年から異常な感動を受け既に此の時から悲壯な決意を鞏めたものと信じます、だが勿論之は單に此の一少年から受けた感動のみではなく國民全般が感激の熱誠を以て送る其の景團氣の齎した結果であり江下一等兵は其の對照を偶々出現した此の少年に求めたものと思はれます、そして此の少年とは久留米市莊島小學校尋常科第五年生である家谷計男君でありますお父さんは第一銀行久留米支店貸付係主任として勤めて居らるゝ方でお母さんと妹及弟二人の合計六人暮して極めて圓滿家庭教育も亦行届き近隣の信用も厚い様であります。それで計男君が此の形見のハンカチを貰つて歸宅致しますと之を聽いて兩親は共に非常に感激し之を粗末にしてはい

けないと早速形見のハンカチと煙草に五十錢銀貨を神棚に供へて燈明を上げ一家揃つて毎朝其の兵士の武運長久を祈つて居つたと云ふことであります。

越えて二月二十三日午前十時頃一通の葉書が上海から計男君宛に届きました之即ち江下一等兵からの便りであり之に依り始めて彼の兵士が久留米工兵第〇〇〇隊第〇中隊の工兵一等兵江下武二なる人であつたと云ふことが分つたのであります、そして其の便りには

拜啓計男君相變らず元氣激濁として勉學のことでせう異郷にて空想しながら鉛筆を執りました僕は出征以來意外にも御無沙汰して濟みません出發の際は久留米驛頭に於て激勵の言葉を以て勵まして下され私等は斯くまで有難き情に本當に感謝せられ永劫に忘るゝことの出来ぬ印象づけられました、さて感激の中に一路上海東部に上陸今敵味方の砲彈は飛散しやつと敵の鐵道工廠を占領堅固なる陣地を構へ待機の姿勢に在り後命を待つてゐます我軍は各國がうるさく非常に不利な地位に在ります計男君にも早く成人なされまして天晴軍人となられんことを異郷の空にて御祈りします餘は後便にて

上海派遣混成〇團工兵〇隊

陸軍工兵一等兵 江 下 武 二

#### 家 谷 計 男 君

と書いてありました夫れで一家は未知の兵士から形見や手紙まで貰つたので一同感涙に咽び何か戦地へ送らうか又凱旋の曉には祝宴を開いて戦争の手柄話でも聽かうと思つて居た相であります處が其の翌日肉彈三勇士の號外は一家六人を驚かしました即ち其の中の一人である江下武二とは一家が感涙の對照であつた兵士其の人であつたからであります。

後日尋常三年の妹澄子が「お兄さんが泣いた」と題して次の様な所感文を書いて居ります。

『上海へ行く兵隊を送る日でしたお兄さんが遅く歸つて来て「僕は今日泣いたよ」と云ひなされたので私が「なぜ」と云

ひましたするとお兄さんは「僕今日停車場にいつたら兵隊さんと仲好になつて汽車が出る時五十錢と小刀で小指を少し切り血をハンカチつけてたばこをお父さん」と云つて兵隊さんは呉れた』

そして最後の言葉に

「僕はもう君に會へないかも知れぬ」といつたから「僕は泣いた」と云ひなさいました、私はほんとうに悲しくなりましてお母さんが「生きて來たら御馳走しよう」と云ひなさいました。

尋常三年と申せば僅に十歳内外であります、銃後の激勵に感激した此の勇士の魂は又更に可憐なる少女までも泣かしめました蓋し此の悲壯なる決意を知つて泣かざるものは日本國民でありますまい。

尙北川、作江勇士に關しても或は驛頭に於て或は家庭に於て幾多の涙ぐましき逸話のあることは既に世に宣傳せられて居りますので茲に之を省略致しますが要するに皆銃後の赤誠より出づる出征者に對する激勵鞭鞭の事實であり之が兵士の決意を鞏め君國の爲に一命を抛つの大義に馳せ參する勇士を出すものと信するのであります悉く之れ感激の場面感涙の歴史ならざるはないのであります。

#### 四、結 論

今や新滿洲國家は建設せられて滿蒙の天地に我が御稜威新に輝き上海亦帝國軍の威武に依りて和氣漸く漲るに至り着々として東洋永遠の平和の基礎が固まりつゝあります之固より上御一人の御威徳の然らしむることゝ存じますが更に我が日本軍隊の世界に誇るべき精銳なるが爲であり夫は又帝國軍隊の上下を通じて一兵に至るまで能く我が國古來の大和魂が貫いて居るからと信じます、勿論歐洲戰爭其の他の戦役に於ても或は獨逸魂とか佛蘭西魂とか若くは「ヤンキー」氣質とか種種なものが宣傳せられ幾多の美談が傳へられました然し之等のものは固より外國人中優れたものであつて之を今回の滿洲事變や上海事件に現れた幾多我が忠勇なる將兵の行動に比較すれば其の足下にも寄れるべきものではなく殊に此の肉彈三勇士の壯烈なる勳功に對しては宛も百燭光の前に於ける一蠟燭の如く殆ど視るに足らざるものと信じます蓋し此の勇士

の行動の如きは到底外國人の考を以てしては思ひも及ばぬ所であつて此くの如き大和魂の精華は獨り我が日本國民にのみ  
 惠まれ我が日本國民のみが實行し得る所と信するのであります。之は又我が帝國軍人のみならず實に我が日本國民  
 全体の血管に流るゝ純血と信じて疑ひません。蓋し直接戰場の上ではありませんが所謂銃後に於ける國民一般の赤誠は今回  
 出征兵士の送迎に派遣軍隊の慰問に又は戦死者の弔問若くは戦病傷者の見舞に更に不況生活難の中に在つてすら武器及金  
 品の獻納に幾多の事實が現はれ其の數量に於ても一國を賭して戦つた日露戦争當時を遙に超過したのであります。之を以て  
 見ましても如何に日本國民一般が愛國の至誠に燃え盡忠の至情溢るゝか。判明致すのであります。であるから一部時代  
 思潮の影響を受けたものがあつても國民一般が一致協力して健實なる國民精神の發達大和魂の發揚に努めましたなら決  
 て恐るゝに足らぬのであります。そして苟くも此の精神此の魂にして確固たらば我が國家の基礎は正に磐石の如く其の前  
 途は眞に洋々たるものがあるを信じて疑はないのであります。  
 以上忠烈無比なる肉彈三勇士の實況を語り所懐の一端に及んだ次第であります。不束なる此の私の講話が又何等か將來の  
 爲に御參考とも相成らば幸甚の至りと存じます。

### ○國民工業學院から

拜啓愈々御清祥奉賀候。陳者客年十月本校學院豫科通信教授に際し貴縣學務部長殿を介し本學院事  
 業御高援相煩し度儀願出候以來種々御高配難有奉謝上候。  
 爾來豫科教科書逐號版を重ね各號とも増刷致候盛況にて豫期以上の成果を收め、その第一回を終了  
 し更に來る四月より豫科第二回及本科第一回新學期開始致候、就ては別紙リーフレット加封致候間  
 恐れ入り候得共前回同様御校生徒諸君に本學院趣旨徹底候様特に御高配を賜ひ幸に御勸奨に依り多  
 敷入學相成候様御盡力の程折入つて御依頼申上候。  
 本件に關しては學務部長殿より重ねて御通牒有之候事と存じ候得共、本學院新學期開始相迫り居候  
 間特に右御願申上度如斯に御座候。 敬 具  
 昭和七年三月十五日  
 財團法人國民工業學院  
 理事長 井上角五郎

是迄の綴方を見るに多くは形式完備を標榜しての綴方指  
 導であつた様だ。即ち常に文法的觀方に拘泥して文字・語  
 句・句讀點・假名づかひと言ふ表現上の規則に指導の要點  
 を置いて文の持つ味ひや、生命力のひびき等は決して考へ  
 られなかつた。だから表現の規則に觸れなければ概念的記  
 述の文であつても、その立場からは常に相當な價值を認め  
 られていたのだ。而し今日に於ては文に迫つて行く指導者  
 の心持が廣くもなり、深くもなつて來ているからもう形式  
 萬能で進んでいる者はあるまいと思ふ。あるとしてもそれ  
 は極く小數であつて指導者の多くの者が生活指導を標榜し  
 ての綴方に進んで居られる事と思ふ。兒童の生活そのまゝ  
 を如實に表現させる事を以つて綴方指導の目的として考へ



## 生活から生れた文

高 座 ・ 旭 安 室 勇

て居られることと思ふ。が兎もすると作品の上に表はれる  
 兒童の生活相は、概念的、道德的な單一な表現にとゞまつ  
 てしまふ。そこには何んの人間性もない。兒童の生活の諸  
 相は枯死させられているのだ。兒童がそうした單一な生活  
 を表現すると言ふのはつまり今迄の指導者が、生活といふ  
 ものに對して、概念的、道德的の生活の中心を高調して其れ  
 に附随するところの生活の諸相を認めなかつたのである。  
 つまり家庭生活、學校生活、社會生活を皆きりはなして考  
 へていたからである。だから學校に於て課せられている所  
 の綴方作品の上に、さうした單一な生活が表現されると言  
 ふ事は、いなまれない事實である。而も學校教育に自由の  
 思想が入り込み、個性の尊重が叫ばれ、學校に家庭生活の

要素が取り入れられ、學校の社會化をも意向せられている今日どうして家庭生活、學校生活、社會生活をきり離して考へられようか。家庭生活を中心としているものには、學校生活も關係し、社會生活も關係してはじめてその時、その時に於ける生活を組織するものである。そこにはじめて生活の諸相は生かされ、又人間的であることがゆるされる。で私は兒童の作品の上にはあらはれる彼等の生活を通して、修身的、道德的のいやな解釋はしたくない。もつともつと兒童の生活を解放してやり、そこに自由な生の觀喜を得させる様にしてやらねばならないと思ふ。こうした生活にかなつた文をさして、私は生活から生れた文であるとす。而らば生活から生れた文とは一体どんな文であるかを私の受持の兒童の實際文をもつて示さう。

けん く わ 高一 吉川 知十

僕の兄さんとまきを割つてゐると、皆が来て僕を馬鹿にする。馬鹿にするから尙割れない。

「チエツ口惜し」

まき割を振あげて力一杯割らうとしたら、まきを割る臺よりはづれて土に深くわりこんだ。

と兄さんが

「知、ちつとも割れねえじゃんか、これこの通り百發百中できなきあだめだ」

と割つて見せる。

少ししやくにさわつていたところへ、こんな事を言はれたのでなほさら腹が立つた。いきなりめくらめつぽうまき割で兄をなぐりつけた。すると兄が僕をけたほして「遊びてえならよせ、どこえでも遊びに行け」

僕はもう口惜しくてたまらない。まき割をほつぽり出して、涙をすすりながら齒をくひしばつて、裏の川岸の方へ行つた。セキレが川べりを、びよんびよんと足音がした涙をふいてゐると上の方で、かさりかさりと足音がした「チエツ、今になつて見つかへに來やがつた」

と思つてゐると、豚小屋の方へ行つてしまつた。もう晝も大分過ぎたらしい。そういつまでも川邊には居られない。だんだん怒りがさめてから、目をつぶつて考へて見ると、自分の悪かつた事が目の前に浮んで來る。さうつとぬき足、さし足で家の側まで來ると皆居ない。さいわいだ。と着物を着かへて、飯をもらうとしたら、お母さ

んの足音がする。急いで裏口から逃げ出した。けれどもう腹がへつてどうしようもない。それに大食な僕が夕方まで一食では。が家へ歸るのが恥かしい。たうたう薄暗くなつてから歸つた。

此の文の材料をなしている事實を見るに、まき割りのことであつたう兄とけんくわをしてしまつた。あとでその事を考へて、しみじみと後悔をする。家へ歸つて、ごはんを食べようとしたが、母が來たのでまた怒られやしないかと思つて外へ出た。がお腹がすいてたまらない。早速歸りたいが何だか恥かしい。そこで薄暗くなつてから歸つた。と言ふのが大要である。

もつと簡単に言へば、兄とけんくわをしたがやつぱり自分が悪かつたことに氣づきすごすご家へ歸つたと言ふのである。ところが問題は文題の様にけんくわにある。

もし此の場合、兄の言はれるまゝになつていたならそれは結局、薪割りで兄を打つことは悪い事である、と言ふ道德的な單一な生活に出ているものである。其れは抽象的な觀念の指示に従つて生活しているもので、そこには人間の具體がない。

生活の上になさう言ふ人間的な生の具相が出ていないものは、遂にその單調無味を文の上に發揮するのである。

ところが此の文では、自分が薪割りを上手に出來なくていらいらしているところへ、人から馬鹿にされたので口惜しくてたまらないのである。その上尙兄が面白半分にかふので、たうたう善惡の區別もなく兄をなぐりつけてしまつた。そこでかへつて兄からひどい目にははされる。さうした自分の口惜しさを忘れるために、小川のせゝらぎをしたつて川邊にやつて來たところ。一度は怒りに燃えてやつた事であるが、だんだん後悔をしながら、かへつてさうした自分の行爲をはじているなど、單一なる生活ではなくて、それに附隨した生活の諸相を持つものである。

つまり道德的態度に出づべき事件に遭遇していながら道德生活によらづして、作者の人間的そのまゝな心持を持つて生活している。兄を打つことは悪いが、唯さうした道德的な感情で否定しないで、兄を薪割りで打つことに依つて人間的の満足をあたへている。こゝに生活から生れた文と言ふものゝ本領がある。

もう一つ例を出して見よう

何時もは憎らしいが 高一 吉川 知十  
 昨日橋本までお使ひに行つた。  
 自轉車に乗つて門まで出たら、お隣りの腕白小僧が遊んでゐた。

「おい、どけえ行くんだえ」  
 「橋本だよ」

「のつけてつてくんねえか」

と言ひざま自轉車の荷付けに乗つてしまつた。

僕はその無邪なのが氣にいつて乗り出した。

悪い道だ、くぼつたまりに來た。こつんとした。

「いてえかあ」

と聞いた。

「うん、いたかあねえ」

だんだん行く内に冷たい風が吹いて來た。

「寒いか」

と聞くと

「寒かねえ」

と自轉車に乗つたので大ごきげんだ。

「足をよく開いていろ」

「うん」

見るとびんと開いてゐる。少し行つて振りかへつて見たらけつたるさうな顔つきをしてゐる。一町程行つて又股の下からのぞきこむともうだらんとしてゐる。

「よく開け」

と言はうとはしたが

僕も小さい時分よく前の良ちゃんに乗せて貰つた事がある。その時やはり足を開け、と言はれたが、その時だけは良くはつていられるが、二、三するともう股の上の方がいたくなつてだんだん下してしまふ。と言はれるそのつらさ。それを思ふと言ふ事はとても出來ない。

が而し足をはさまれたなら大變である僕はつくづくこの子をのせて來るのではなかつたと思つた。

此の文もやはり生活から生れた文である。自轉車に乗つて使に行く途中、隣りの子供が乗せて呉れと言つたのでせてやつた。と言ふ事だけであつたならばそれは單なる記録に止つてしまふ。然るに此の文は子供を自轉車に乗せてやつたと言ふ生活の中心に他の色々な生活相が交つてゐる。

1、くぼたまりで痛くないかと氣をもんだり

- 2、冷たい風に寒さを氣づかい
- 3、足を開いてゐるかどうかを心配するが
- 4、而し足を開いてゐる事はどの位苦痛であるかを自分の經驗からして痛く同情したりするところなど

どれ一つとして生活の中心に關係のないものはない。

かくの如く生活の中心に對して尙附隨した種々の事柄を含むものを以つてはじめて生活から生れた文と言ふ事が出来るのであるが、多くの兒童の作品中には中心の生活のみを書いて、單調無味に陥るものが甚だ多い。

生活の上にさう言ふ人間的な生の具相が出ていないと遂に單調無味な文を書いてしまふのである。だから今迄の束縛された綴方から放つて、自由な生の觀喜を得させる様、生活の解放をしてやらねばならない。



神奈川縣郷土史の歌

石野 瑛作歌  
 石野 博作曲

一、「相模の小野に もゆる火」と

御歌にしるき みことの武勇

三浦の海の 走水

花と散りにしみひめのいさを

これ 縣民の かがみなり

二、六十餘州の 土の上に

覇權を振ひし 鎌倉健兒

しこのえみしを 神風に

碎き振ひし 相模の太郎

これ 縣民の ほこりなり

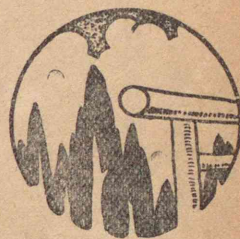
三、浦賀のつゝお と大空に

響いて開く 横濱みなと

東西文化 あつまりて

一つに渦き はな咲くところ

これ 縣民の さかえなり



# 惱みつゝ行く

三浦・西浦 内田 武雄

## 序

### (1) 自己をみつめて

拙ない修養と浅い経験しか持たない私……でも三月有半の教師生活に自己をみつめて拙いながらに真剣に生きて来た積りである。偏つた物の一面しかわからない未経験者の言葉として私のこの發表を聞いて下さる事をお願い致します。人に面と向つては思つて居る事の十分の一も話し得られない私ではあるが一人筆を走らせると何でも書いて仕舞ふのです。

幼い子供の様な私……自己をみつめて私はやはり一人の人間として自分を愛さないでは居られないのです。ましまりのつかない人間の發表である以上、發表事項も自然斷片的であることをまぬかれません。

私自身救はれて行く姿についての反省であり告白です。私は先生である前に先づ一人の人間でありたいと思ひます。平凡な意味での先生らしい先生になりたくないと思ひます。言ひ換へれば子供に向つて「親孝行をなさい」と説く教師又「嘘をついてはいけません」と説く教師が反面に於て親不幸な子供であつたり又嘘つきであつたりする事實。此の様な先生になりたくないと思ふのです。

「偽らざる眞の姿で兒童の前に立たう」之が私の念願でした。偽の面をつけ偽の聲で教へたとて一體何になるか子供は何の感激も其の中から見出してはくれないのです。此の間の修身の時でした私は自立自營について色々話しま

した。「君方は今はお父さんやお母さんが生きてゐて下さるから何不自由なく生きて行ける又學校へまでよこして戴ける然しお父さんお母さんはそう何時迄も私達を面倒みて下さりはしない。私達よりお年の多い御両親は何時かは私達より先になくなられるのです。其の時私達は迷はぬ様に常に心掛けてゐる必要がある。」その時一人の生徒が立つて「では先生は大きくなつたら何になる積りですか。」ときいた。私はその時答ふべき言葉を持たなかつた。何の信念もなくぼんやり教壇上に只空虚な聲を張り上げて居たに過ぎない自分は何で「終身、教育のために一身を捧げる覚悟だ」等と大それた事が言へ様、私は只赤面した。そして子供の前に本當に恥ぢて謝した。

「どうやら命がつけられたらそれでいゝんだ。」と云ふ人間らしくないあきらめの聲が心のどこかにさもしくもひそんでゐたのだつた。小さい井戸の様な世界に自己満足をしてゐた自分が餘りにもあさましく思へた。「本當に生き甲斐のある一日一日を積み重ねて行きたい。ごまかして生きることには天に對する冒瀆だ。私も一生懸命やる貴女方もどうか全身心を投げ出して努力して下さい。」こんな風なことを話し

たことを覚えてゐます。私ばかりではなく多くの教ふる者の間に此の様な事があるのではないかと思ふ。或教師が「ナポレオンは皆さん位の年の時にはもうこんなにくらくなつてゐた皆さんも之を思つて大いに努力しなければならぬと話した時一人の生徒が立つて「ナポレオンは先生の年には已に全ヨーロッパを征服してゐました。」と答へたと云ふ笑話も單なる笑話として聞き捨てしまへない何物かを持つてはいまいか。三浦修吾先生は其の著「學校教師論」の中で次の様に言つて居られる。

「生徒に言つて聞かせる事は教師の心から出る物でなければ權威はないものである。教師が眞實に信じて居ることではなければ其の言ふ所に力あるものではない。自分の心にはないのだけれど學校のきまりだから言はなければならぬかつたり、教科書の中に排列してあるのだから省くわけには行かないで止むを得ず授けると言ふのでは何にもならないものである。教師が生徒に與へるものには教師の心情によつて温められたものがなければならぬ。教師の提供する材料には教師の人格が其の裏附となり背景となつてゐなければならぬ。さうでなければ教へる事柄が生きて來ない、活



きてゐない物は生徒の目や耳から入つても生命を持たない。それは生徒の養分にならないばかりでなく不消化を起させて生徒に嘔吐を起させるに過ぎないのである。

教師の心から教へる事の出来ない様な材料は思ひ切つて省いて仕舞つたがよいのである。さうしてゐてはまともな事を生徒に授ける事が出来ないやうであつたら教師としての修養が足つてゐないのだから先づ自らを教へると言ふ事に心を用ひなければならぬ。私が修身を教へて居た時に「恩に報いよ」と言ふ項目の所に至つて行き詰つたことがある。我等は一切から深い恩恵を受けてゐる。それ感謝しなければならぬ。そして其の恩に報いることをしなければならぬ。人間の生涯は煎詰めると感謝報恩の生涯であるといふことを私は第一流の思想家が考へ得る程度に於て系統的に教授し得る自信を持つてゐた。けれど今日迄多く忘恩のことを敢てして來てゐる私には温い心の力でこれを教へることは出来なかつた。

口では立派に説く事が出来ても私はそれに自分の血液を注ぐことは出来なかつた。それで私はそれを止めて私が受けて來た恩恵の數々をどの様に私がそれを空しくして來た

かと言ふ懺悔みた様なお話ですましたことがあつた。丁度母が亡くなつた頃で七十年の生涯を死ぬ迄、私のために犠牲になつてくれた母に對して私は報恩らしい一ツの事もしては來ず、不幸の心に母を苦しめてばかり來た事の打明け話をもした。私が鹿爪らしく報恩の教を説いたであらうよ

りは此の方が生徒に理解させ感ぜさせることが多かつた様にも思はれた。自分が若かつた頃には敢てした事で年をとる間に自然になくなつた様な事柄について教師が生徒にあまり強い訓戒を興へても甲斐が少いのである。」と言つて居られる。自分を反省してみても子供の前には恥ずる事なく話しが出来る様な教師になりたいと思ふ。何でも知つて居る教師でなしに何でも子供と共に行ひ得る先生でありたい。靜かに自己をみつめた時に、そして反省した時に堂々と修身の話をし得る先生が何人あるか。私は考へる「今迄の様に生徒に何々をなさいと言ふ前に先生は已にその事柄の實行者でなければならぬ」と。少くとも先生は子供と共にその事に力を盡し、そして實際の上に於て子供を導いて行くだけの覺悟を欲しいと思ふ。教ふる者の惱みが此處に初めて解決されるのではないでせうか。自己撞着のジレン

マから救ひ出されて朗かな氣分で教ふる事が出来るのではないでせうか。

## (2) 子供をみつめて

小さいどん栗の中には大きな榎の木になり得る力と生命がひそんでゐる。卵の中にはやがて雛となり親鳥となる目的と力が潜在してゐる。然し雛の實からは榎は芽生えず、家鴨の卵からは如何にそれを雛にあたまめさせたからとて雛は生れない。この様にその者の持つ個性は如何ともなし得られない。この個性に信順して最もよい環境を作つてやる、之が教育の仕事ではないか。……

子供は我に生きる心が強い。彼等は小さな暴君である一面に強い強い社會性を持つてゐます。喜んで大人のお手傳ひをします。この心の芽を尊重し伸ばしてやる事も大切なことと思ひます。「お母さんがおふとんをたゝんで居る傍で子供が手傳つてゐます。ヨチヨチあぶなかしい歩き方で大きな枕をかゝへて……お母さん枕をしまつて頂戴」と持つて來た時お母さんは忙しいので遂返事もせずに尙悪いことに「邪魔だから彼方へ行つていらつしやい」と叱つたとし

ます。子供の心に折角芽生へて來た美しい勤勞の芽は無残にもたゞきつぶされて仕舞つたのです。何げなしに大人のやつた事が子供にどんな恐るべき影響を興へるか私達をよく考へて見る必要があります。私は子供をみつめ本當に子供をよく理解する手段として修身の時間に反省發表をやつてゐます。時間の初十分程をさいて行ひます。自己の行為の反省であり過失の懺悔であり告白であり友に對する忠告である。こんな意味で三ヶ月程前から始めました。或時には反省で時間の半分位を使つて仕舞ふ事もあります。然しそれでいいのではないかと思つてゐます。尋常程度では本當の反省は不可能かも知れません然し決して現在完全なるものを求めてはゐません。將來への一過程としてあります。子供と教師が本當に心を披瀝する所に眞の修身教授がありはせぬかと考へます。自分の反省を人の前で發表させることは自然でない様にも思はれます。又却つて子供の虚榮心をそゝり虚偽を強ふる様にも見えます。本當に人の前で發表し得られることは第二義第三義のもので淺薄な物の様にも思はれる、然し私達も子供も事實の前には黙して居られないのです。歡びは共に語りあつて喜び苦しみは共

に語りあつて苦しむ。こんな嬉しい事はないと思ひます。自分の喜を眞に喜び苦しみを眞に苦しんで呉れる人のある程有難いことはありません。「友の憂に我は泣き我が喜びに友は舞ふ。」この様な友が一人でもいゝほしいものです。大人の様な虚偽の中に生活して居ない眞實の生活者である子供の聲をきいては私の生命も動かすには居られないのです。アンデルセンのお伽話の中に出て来る子供をこらんなさい。目に見えない着物を着て町の中をねり歩いた嚴めしい王様に向つて「裸の王様がお馬に乗つてゐるわ」と叫んだのは子供でした。子供の聲を聞いてこらんなさい。本音を吐くのは子供です。素朴に大膽に物をまともに見るのも子供です。だから子供の言葉や動作には力があります。野の人らしい健康さと朗かさがあります。岡の上で七ツか八ツの男の子が相摸灘の彼方に沈んで行く夕陽を眺めて居るのを見た事があります。子供は夕方になるとよくむづかります。私の六ツになる妹もさうです。そしてよく泣きます。夕べの淋しさが何とはなしにひくと身に迫つて来るのです。これを無暗に叱かるのは大人の方が悪いんです。「はつきりおつしやい。泣いてゐてはわかりません。」と叱る母で

なしに夕方の淋しさを子供と共に味はふ母……この様な心で子供を見て行きたいと思ひます。野村芳兵衛先生の本の中に次の様ながありました。

「初夏の青葉をゆすつて吹いて来る風を頬に受けながら私は窓によつて子供達の學習帖を見てゐました。Tといふ子供のノートをとつて開いた時「麥は笛になります」といふ字が目に入りました。「麥は笛になります。」私は何度も口の中で繰り返しました。實は私は「麥は食料になる」とばかり思つてゐたのでした。」と。眞實の姿を見ぬく力に於て大人は子供の敵ではありません。話がわき道へそれました。が眞實の中に生きて居る子供でありますから初は第二義第三義的だつた反省發表も教師と全兒童のお互ひの眞劍な態度によつて除々に第一義的な物迄打明けて相談する様になりはしないでせうか。この様に親しい間柄になり得るだらう事を期待しつゝ私は毎時反省を續けてゐます。時には教師の心を打ち明けて話すこともありす。こうして缺けた心貧しい心と美しい心願とが互に助けあひ關聯しあひ此處に美しい教師と子供が一如となつた一體が出来上るのではないでせうか。空虚な觀念の上に如何に諄々と道を説い

たとてそれが一體何にならう。徳目の意義等を空に教へたとて何の役にも立ちはない。子供は子供なりに反省してその物を基礎として反省の中の良い所は道徳的の意義を附し足りない所はおぎないあつて行く之が本當の役に立つ修身教授ではないかと思ひます。最初の間は反省をさせても誰も發表をしませんでした。四五回までは失敗に終りました。が此の頃は進んで發表する様になりました。友人が自分の缺點や過失を發表したとて怒る子供も此の頃はなくなりました。缺點であり過失であればこそ發表して全兒童と教師の批判に訴へ自分のために又全兒童のために全部で共に考へ反省して行くのです。子供同志よくやる悪口や告げ口とは異なることをよく子供に話しました。反省事項を二三あげて見ます。

- 昨日はお祭だつたけれど私はお父さんがいないから悪い着物でお祭に行きました。
- 學校の歸りに木の實を食べながら歸つた。
- 道に電柱のガイシが破れて落ちてゐたから拾つて田の中へ捨てました。
- 頭を繻帯してゐた女の子を笑ひました。

- 昨日お家でお母さんが「何かとつておくれ」と言つた時足でとつてあげました。
- 土曜の晚學校へ活動寫眞を見に來ましたが皆歸つた後に紙屑が一杯ちらばつてゐた。運動會には氣をつけたい。お祭りに買ひ食ひをした。
- 秋谷の方の唾をかまひました。
- 度々先生から注意されたが言葉がまだなほらない。叮嚀な言葉を使ふと五年の女生や男生がお嬢さんと笑ふからきまりが悪い。
- 今朝學校へ來る時肩を組んで來たがSさんに注意されてやめました。
- 一年の男生が下駄が切れて困つてゐたので手拭ひを切つてたてゝやりました。
- 昨日歸りに稻を背負つた女の人を畦道で通せんぼしました。
- 私が姉さんと山へ行つたら、よそのお爺さんがころんで足をいためて困つてゐました。私と姉さんと二人でお爺さんの手をひいてやりました。
- 今朝らく書を消して來ました。

○K 子さんが下駄が切れてころんだ時に「ざまを見る」と  
こなしました。

○一年生に鞆を持たせました。

修身の生きた教材を以上の中から求め得ると思ひます。「人間親鸞」の中にこんなのがあります。「懺悔はいくらも出来  
ますけれども只過去の罪を出駄ら目に打ち明けたからと  
て、それから後に本當に欲を離れ心を淨くすることが出来  
なければ又その誓がなく只懺悔するだけならば私は只罪が  
重なるだけだと思ひます。」と……

又こんな話もあります。或所に大變熱心なクリスチャン  
がありました。或時彼はふとした事から盗みを働きました  
た。彼は神の前に泣いて懺悔をしました。然し數日後彼は  
再び神の前に泣いて懺悔しなければならぬ罪を犯しまし  
た。以後再三ならず彼は盗みを犯しましたが其の度に涙を  
流して神に懺悔をしました。こんな懺悔は眞の懺悔の冒瀆  
です。只置が重くなるばかりです。

子供の反省がこうならない様に注意してゐます。又反省  
發表を爲すための虚偽の善行を強ひることがない様に注意  
してゐます。キリストが言つた様に隠れた善行の尊さを常

に子供に話してゐます。私の前でお褒められる爲にやつて  
居る様な氣配の見える事柄は故意に褒めない様にしてゐま  
す。たとひ其の事がどんなよいことであつても……

子供を見つめて行く事は困難です。只見つめて居るだけ  
でなしに子供の心と教師の心とが密着する事がより以上に  
大切です。次に綴方に表れた反省事項を少し擧げて見ま  
す。

悪い心

H N

私は家へ歸つてからお母さんが用をやりなさいと言つた  
が私は「いやだ」と言つて遊びに行つてしまひました。  
私はいやな氣持がしました。それから私は一年中學校か  
ら歸るとお母さんのお手つだひをします。

當番

K O

土曜日の大掃除の時雑巾がないので遊んでゐると教壇の  
上に雑巾があつたので私は「誰のもいゝから使つてや  
れ」と小さい聲で言つてそれを使つてゐると五年の人が  
一生懸命雑巾をさがしてゐました。私は知らぬ顔でふい  
てゐました。當番が終つて歸る時私は「今日は悪いこと  
をしてしまつた」と思つて心が少し變だつた。

たけのこ

A H

私と喜美子さんと山へ遊びに行きました。歸りに何所か  
の竹の子が出てゐました。ので私は取りたくなつて取り  
ましたが氣がついて又おいて來ました。私はあとで「置  
いて來てよかつた」と思ひました。

つめ切り草の花

K K

私が三年の時の事です。草子さんの家の裏で私と草子さん  
と二人で遊んでゐました。私が一寸向ふを見ると前の家  
の庭につめきり草の花が咲いてゐました。私が草子さん  
に「あの花を取らないか」と言ひますと草子さんも「取  
らうよ」と言ひましたので取らうと思つて手を出します  
とガラガラと音がして硝子戸をあけて前掛姿のおばさん  
が出て來ましたので花を取らうとして出した手をいそい  
でひっこめてしまひました。

けいと

M V

私は此の間三年の者とけんくわをしました。私が遊んで  
居ながら毛糸を持つてゐたら「てうだい。」と言つたので  
私が「いやだ」と言ひましたらその子は「それならいゝ  
わ」とおこつていつてしまひました。私はあとで遊ぶ者

がないので、あげればよかつたと思ひました。今でもそ  
の子の顔を見ると何だかみづらい氣が致します。

あさのしごと

F F

此の間の事でした。毎朝の事をするのがいやなのでかあ  
ちゃんに「永二をおぶつてやらうか」と言ふとかあちゃん  
に「そうじがいやだからだらう」と言はれました。そ  
れでも平氣でおぶつてやると言つて、おぶつてしまひま  
した。あとでかあちゃんに「そんなに用をいやがつては  
いけない」といはれました。それから毎朝の事をやる  
様になりました。

一年生の帽子

H O

私は昨日一年の男生の帽子が落ちてゐたのであげてやつ  
たら又おとした。そしてあげずにふみつぶしていつてし  
まひました。それで私が又かけてやつたら又おとしてし  
まふ。たく山おちると人の帽子をかぶつて外へ出る。そ  
れで歸る時にみんなまちがへて行く。

ぞうきんがけ

T K

此の間の當番の時みんなは一生けん命でぞうきんがけを  
してゐたが私は寒くて寒くてたまりませんでしたから少

しぞうきんがけをしてそれから机をよせておきました。家へかへる時わるい事をしたと思ひました。

悪いいたづら

H K

昨日の晩私達は人の通るのをこわくしてやらうと思つて畠のまん中にかごをおいて其の上に着物をかぶせておいてあくる日朝早く起きて見に行くに着物はそのまゝにしてあつたががごは下の方のころばつてゐた。

妹のはなを

T S

私はいつも學校へ来る時妹と来ておりました。妹のはなをが切れたのでたてゝやつたら又切れたので私は妹を叱りましたら妹は、はだしであるき出したのでかはいさうになつて又たてゝやりました。

けんくわ

K N

私の弟と私とは年中けんくわをしてゐます。ですからおぢいさんに叱られます。叱られると尙くやしくなるので弟をぶつたりします。弟がなき出すと私はそのまゝどこかへにげてしまひます。

うれしかつた事

K T

私はお母さんの肩をたゝいてやつたら大變喜びましたの

でその次の日はお父さんの肩をたゝいてやると「子供の方が上手だ」とおつしやつた。私は心でうれしいと思つてゐました。毎日たゝいて上げたら「毎日たゝいてゐるから今日はお休み」といつたので昨夜は休みました。

が ま ん

Y I

私がけんかをした時強くおこらうとした。その時ひよつと悪い事に気がついてやめた。向ふでは私を盛にいちめてゐたが私は悪い事と思つてだまつて家へ歸つた。家でごはんを食べる時その話をしたら「それはよい事をした」とほめられました。私はそれからけんくわをしません。

教室の窓

M N

二日の日の事でした。當番を終つてから運動場で毬投げをして遊んで居ますと小使さんが入口をしめに來たので私達は歸らうとしました。ふと教室を見ると窓がしめてありません。私が小使さんに「一寸窓をしめて下さい」と頼みますと小使さんはしめて下さいました。私はあとで「自分でしめればよかつた」と思ひました。

お人形あそび

S H

私は今日讀方の時間に机の下で圖書の紙を出してお人形

を書いたり又色を塗つたりしていたづらをしてゐた。そして先生が見るとひよつといたづらをやめて先生の方を見た。それから少したつてベルがなつた。すると私はハツト思つて私はこの一時間遊んでしまつたと思つて次の時間には一生けん命に勉強しました。

毬

M F

此の間私が學校の歸りに毬をつきながら歩きましたら友達がとめてくれました。私が「あなたゝつてついであるいたことがあるでせう」と言つてどん／＼あるいて家へきてしまつた。あとでせつかくとめてくれたのにあんなことを言はなければよかつたと思ひました。

しんせつ

U M

靜さんと私とかよこさんの家へ遊びに行きました。夕方になつてお日様が入つた頃秋谷の方からおばさんが赤やんを車の上のかごにねかせて其の外色々な物をのせてきました。私達は三人で、まばねの方迄おしていつてやりました。

ずるいこと

S Y

私が聯合體操の時毬つき競走をやつて私は人より先にか

け出しました、ので私の方が勝ちました。聯合體操が終つてから赤の者に私がずるい事をしたのを言はれたので私ははづかしかつた。

\* \* \*

私は反省をひいては懇談的態度で行ふまでに導きたいと思ひます。子供の心で解決のつかない事。善惡の判断のつき兼ねる事。子供の色々な苦しみや悩みを懇談的に話しあつて拙なき自分ではあるが拙きは拙きまゝに彼等のよき相談相手となり得る様に私は努力してゐます。稻森愛次郎氏は其の著書の中で次の様に述べて居られます。

「先生、親の言ひつけにそむいても勉強するのが孝行ですか自分は女學校に入つて勉強したいと思つても母が一人です許さぬ場合はどうしたらよいでせうか。」これは高一のSといふ受持の女兒が私に問ふた問題であつた。私は只概念的な問題だらうと思つてゐたが彼の女の瞳に涙が光つてゐたのでその眞剣さに引きずられていつた。私はきつと切實な問題として自分にせまつてゐるのだらうとは思つたが然し私は次の様な意味しか答へる事は出来なかつた。「親の命のまゝにするのが必ずしも孝行とはならぬが然し親の言ふことはよく／＼考へて見ねばなりません。ありし世の父母の

いさめのまゝならばくやくし身をばなげかさらまして親の意を汲み得ないで後で悔むような場合は随分と多いものです。けれどもそれは周囲の事情と境遇との關係でさまることかと思ひます。自分の決意が眞に正しく親の爲にもなるのだと思ふなら親の理解を得て後にする事も決しておそくはありませんまい。あなたの考へがより深く眞實に炎ゆるならば必ずや親はその願を容れて下さることゝ存じます。」と私はどう考へても之以上に答へることは出来なかつた。然し何だかまだ物足りなさを感じてゐた。「この様な悩みを上級生は上級生なりに下級生は下級生なりに持つて居ると思ひます。それに對して私自身拙い者ではあるが何等かの點で少しでも力になり得たらうと私は思ふのであります。」

### (3) 潤む心で子供の純一を見よ

子を持つ親の心には常に涙がある。子供である私自身にもそのことはわかる。子供の爲には全生命を投げ出して迄盡さうとする親の心を。いや出来得る限りそれに似た心を以て子供を導いて行きたい。子供を叱責し子供を懲罰する心の奥には常にこの涙があつてほしい。子供がよその家の

大切な道具を痛めて歸つて来た時先生はきつと「何故そんな事をしましたか。」と叱かるでせう。けれどお母さんは「まあどうしたらよいでせう。」と子供と共に困ります。この心があつてほしいと思ひます。坊やがお爺さんの膝にのつて禿げたお爺さんの頭をおもちやにしてゐます。やがて坊

やはピシヤピシヤ禿げた頭をたゞき初めました。お爺さんは嬉しさうです。濕む心ではないでせうか。自己の心を慰める爲の怒や、子供の存在を無視した教師の心の不快の表れである懲罰は叱責懲罰其の物本來の眞の目的を達しはしないでせう。子供の悪を改めるも子供をして教師の心に感激を持たしめるも皆心の底にこの涙なくしては望み得られないのである。心の底からわいて出た愛の叫び之が叱責懲罰の形で表はされた時のみに眞の効果を期待されるのである。教師の懲罰がいまはしい裁判沙汰を起す等は此の心の缺けた結果ではないかと思ひます。意氣に感じ愛に共鳴すれば身命を惜しまぬのが人情であります。子供から眞に親の様に親しまれるのも此の心あつてこそ初めて出来得るのです。稻森愛二郎氏は次の様に告白して居られる。

「私が曾て尋六の男子を受け持つてゐた時或體操大會に出

てやらねばならぬことがあつた。私は毎日練習してゐたが一ツどうしても跳越臺がとべなかつた。幾度やつてもとべなかつた。私が指導出来ない所から子供も半數しかとべない私は痛恨の胸をたゞきつけながら盲躍するけれども、それでも遂に駄目だつた。さもしい心で私は「跳べぬ皆めいめいとんでくれ」と力なく側の鐵棒に倚りかゝつて眺めてゐた。子供は私をあはれと思つたのであらう、その日の放課後迄には一人の跳べない者もなくなつた。愉快だつた。今も忘れない。一生忘れない感激！そうだ矢張り心の問題である。」と。自分は之を讀んで大いに感じた。徒に兒童の同情をかふのではない。教師の心と子供の心の間に交はされた美しい火花のひらめきの様な何物にか感じたのである。心では如何ともなりさうにも見へない技の指導が教師の炎へ上る熱と意氣の爲に手をとつて教へた以上の効果を

問題ではないと思ひます。事情を知つた曉には父兄の怒は氷解して感謝の念と變る事と信じます。くり返して言ひます、子供に對する教師の心は矢張り同情であり愛であらねばならぬと。

(4) 愛とは何か

では愛とは何か？今日一般に弄ばれてゐる言葉で之程廣く用ひられて居る言葉はないと思ひます。曰く人類愛。曰く母性愛。曰く隣人愛。曰く教育愛。と。然し愛の本質とは一體何か。其の本質を十分に説明したものを私はまだ見た事がないのである。「私はあなたを愛します。」とたやすく言ふ現代人の愛に對する認識が那邊にありや、私はこれを疑ふ者である。私達教師はやゝもすると愛の假面にかくれて子供の純な本然性を偏け易いのである。私達のみではなく世の親達も此の過失を踏みつゝあるのではないかと私は思ふ。内に立つた乞食に一碗の飯をめぐんでやるのも愛である。喜捨を乞ふ乞食を鞭打つて過ぎたと言ふ老僧の行が愛であるとも云へる。つまづいた子供を起してやるのも愛である。自分から起きる迄放つておくのも愛であらう。親

犬が仔犬を愛するのも愛であれば生れて三日己の愛子を斷崖より突き落す獅子の理性も愛である。

「愛は惜みなく奪ふ。」といふ語も愛の一面の眞理である。又「愛は惜みなく與ふ」といふことばも一面の眞理である。愛は利己的のものか利他的のものか。自己の成長が自己犠牲か。自然的のものか努力的のものか。優者が弱者に與へるものか。又平等關係に於て行はれるものか。人間のみのものか。動物にも無生命の物にも通ふものか。？。

表面だけの薄ッぺらな愛は子供を甘やかし、ひいては子供の輕蔑の買ふだけである。心からの逆りである眞の愛こそ、子供に感銘を與へるものである。心の奥底から出たものであれば動物の盲目的抵牾の愛でも尊い。表面だけの現代人の考へる様な愛よりいくら尊いか知れない。愛は或時には温い形で表現されるもよい又、或時には嚴格な態度で表現されるもよい。如何なる手段によらうと相手の心を温めてやる。自分の輝いた心で相手の心まで輝かしてやる。

これが愛だと思ふ。だから母に對しても妹に對しても野に咲く花にも土破つて芽生えて来る若芽にも輝きつゝ海の彼方に沈む夕陽にも澄んだ空に雪をいただいてそびえたつ高

山の嶺にも私は愛を交換することが出来ると思ふ。此の輝いた心の子供の心にうつしてやる之が教育愛ではないか。修身の時間博愛について話しました。「愛とは何か、どんな事なのか。愛に似て非なるものがある。勉強のよく出来る顔の可愛い子供は誰でも可愛がります。お金のあるきれいな着物を着た人は誰からも愛されるでせう。けれどもそんなものは愛ではない。そんなことを愛と呼んだらそれこそ愛の冒贖である。そんなものは愛でも何でもない。顔のきれいな事や金のあることに、又美しい着物に愛に似た心を感じるのであつて決して心からの愛ではないのです。

金のなくなつた時顔に怪我をしてみにくい姿になつた時、そんな愛はすぐ消えてしまふのです。又眞の愛であるにしてもそんな幸福な條件を具へた人々は誰からでも愛をうけるのであるから特に愛してやる必要はないのです。

貧しいきかない着物を着た勉強の出来ない子供こそ愛してやる必要があるのです。誰からも愛されない哀れな人達であればこそ本當に愛してやるべきなのです。貧しき者弱き者、みにくき者は愛の糧がなくては生きて行けないのです。愛してやることによつてひがみ易い心に輝きを與へて

やるのです。

— 行 つ み 惱 — ( 31 )

以上の様な事を話したことをおぼへてゐます。一人の子供が石に躓いて倒れました。大きな聲で泣いてゐます。然し私は知らぬ顔をしてゐる。かけよつてすぐ起してだまるまでいたはつてやれば如何にも愛の徳にかなつた行の様に見えるかも知れない。然しそれは眞に子供を愛するの道ではない。倒れた泣いても自分で起き上るまで構つてやらない。倒れた子は時々こちらを見て餘計に聲をはり上げて泣く。でも起してやらない。起して貰ひたいだらうけれど起してはやらない。いつ迄も泣いてゐたがでも終には一人で起き出して泣きながら私の傍へやつて来た。私はまだ黙つて子供の顔を見つめてゐる。泣き止むまで一言も言はない泣き止んだ時に「倒れたら自分で起るのですよ。」と言つてやる。子供はこれからは泣かずに一人で起きる様になる。之が本當の愛ではないかと思ひます。一寸見ると冷い不人情な人間に見えるでせう。温みのない人間だと言はれるかも知れません。それでもいい。こゝに愛の苦痛があると思ひます。人生の道に躓き倒れた一人の男が一人で起きあがらずにいつ迄も泣いてゐました。天の父は何時迄泣い

てゐても起しては下さらない。すりむいた膝が痛んで聲をばりあげて父の方を見るが神の御手はそこ迄伸びて来ては下さらない。あきらめてやつと自分で起き父の傍に行つた時天の父は嚴かに其の男を叱る。それが其の男の心をひきたてる。彼の心に一抹の輝きを與へる……。之が愛だと私は思ひます……。

ころんだ子供にかけよつて起してやれば自分の感情は満足出来る。それではその行爲は自己の快感と満足を得ようための本能の作用にすぎません。愛はもとより本能を出発點とはしてゐますがそれがそれに思慮と意味が加はるのでなければ眞の愛とは言へません。己れの好きな者を愛し嫌ひな者を憎む之は人情である。人情を超越するのでなければ眞の愛を實現する事は出来ないのです。感情の奴隷である間私達は永久に眞の愛を實行する事は出来ないのです。

此處に愛の苦しみがあります。或所に一人の女教師が居りました。熱心なクリスチャンでした。此の人が或人の後妻として嫁いで行つたのです。其處には先妻の子が六人ありました。婦人は神に祈つて六人の子供を我が子の様に愛するといふ覺悟で嫁いで行きました。所が日がたつにつれて

如何にしても愛さうと云ふ感情が起きなくなりました。だ  
ん／＼とさめて行く感情をどうすることも出来ず彼女は自  
分の心の弱さに泣きました。如何に努力しても憎しみや  
腹の立つ事が多くなつて来て母らしい愛情が起らなくな  
つたのです。泣いて神に祈つたけれど、どうにもならな  
かつた。生母でないのに生母の感情を以て愛さうとしたから  
いけなかつたんです。感情の奴隷である間は何人も此の婦  
人の様なプロセスを辿らねばならないと思ひます。繼子に  
同情するのは人情である。その人情に起因する同情がいつ  
までも續くと思つて嫁いで行つたこの様なまゝ母が多いの  
ではないでせうか。こんな心で嫁いでいつた繼親がきつと  
此の人と同じ様な悔を抱くだらうことは當然すぎる程當然  
です。繼子に對する同情一天張りで行く前に先づ後に當然  
來る可き物を豫想して其時の苦勞を辛抱する覺悟を持つて  
行く事が大切ではないでせうか。教師と子供の間にも之に  
似た關係がありはしないでせうか。始めから天使の様な情  
愛を以て兒童に接し様と思つてとりかゝると次第に嫌にな  
り腹の立つ事が多くなるのだと思ひます。愛は他人のため  
の苦勞であり忍耐であるのです。他人を愛する事は他人の

ために十字架を負ふことです。人を喜ばす事が必ずしも愛  
ではなく物を與へる事のみが愛ではない。愛は己れ自身を  
與へることです。愛は報酬を目當にする様な打算的な人間  
には行ひ得られないのです。人を愛したために却て誤解  
され惡まれ時には殺されることがあるかも知れない。吉田  
松陰然り。キリスト然り。ソクラテス然り。日蓮然り。戀  
愛をする人なら死ぬ覺悟でやれと言つた大學教授があつた  
のも肯じられるのである。愛は許容することである。相手  
に踏みつけられる事を覺悟する、でなければ人を愛するこ  
とは出来ない。喜んで他人の足下に踏みにぢられる人間で  
あつて初めて人を愛する事が出来るのです。人の爲に己を  
捨て得る人間でなくては……。多くの人々は自分は他人  
を愛して居ると思つて實は自己を欺いてゐるのではないか  
乞食が來た。めぐんでやつてはいけないと思つても自分の  
氣の弱さが彼に物を與へたとする。それは愛でも何でもな  
い。與へなければ自分の氣がすまないのです。自分の感情  
を満足させ慰める手段にすぎないのです。外見は他を愛す  
るに似て本當は自分が可愛い、からなのです。自分が苦し  
むのがいやだからなのです。本當の親切は内村鑑三氏の言

葉をかりて言へば「深遠に親切なれ。」でなければなりません。  
自己の心の弱みから出た親切であつてはならないので  
す。教師の愛も強い意思の力から出た深遠なものでなけれ  
ばなりません。生優しい感情に支配されてはなりません。  
感情に打勝たなくてはいけない。泣く子には放つて置けば  
よい一人でだまるものです。暴れる馬は靜まる迄待つて居  
ればよい。教師の落着いた沈黙の態度程子供にとつて力强  
く權威ある物はないと思ふ。私は先程愛は盲目であつては  
ならないと言つた。然し教育家が最も自然に強く見られる  
のは母の姿に於てであるといふ事を否定する何の根據をも  
持たない。雛を庇ふ雌鳥の姿にこそ眞の教育の姿がある。  
盲目的な愛にはちがひないが盲目的であればこそ教育愛の  
全圓を示してゐるのだと思ふ。だからと言つて先程言つた  
愛は盲目的であつてはならないと言ふ考へを改めたのでは  
ない。盲目愛の中に言ひしれぬ尊い眞劍味のある所を取る  
のであつて盲目愛の總てを愛の模範として取り入れるので  
はない。犬が來れば勝ち得ないとは知りつゝも親鳥は猛然  
と犬に襲ひかゝる。命を投げ出さなくてどうしてなし得ら  
れよう。教育の本質が明かに理論づけられて後子供を愛す

べきことが知れたのではなく子供を深く愛するが故に教育  
の理想が生れたのです。故に教育理想のための教育愛では  
なく教育愛の發展としての教育理想である。母が深く子供  
を愛する。愛すればこそ教育理想が母の心に考へられるの  
である。教育理想はこうである故にこの様な方法を以て子  
供を愛して行かなくてはならないと云ふ論は成立しないの  
である。又教育は常に素朴でなければならぬ、ルソーは  
エミールをつれて田舎へ行つた。詩聖ラビンドラナート・  
タゴールは森の中に子供を遊ばせてゐる。教育の眞の姿を  
此の中に見出し得るのではないかと思ふ。自然はえん豆を  
育てるのに何の豫定案も育てると言ふ意識も持たないと同  
様に自然は人間の教育にとつて大きな役目をはたすが然し  
人間を教育するのだと言ふ何の意識も持つてはゐない。そ  
の一面に限りない力強さと素朴さを持つてゐる。夕やけこ  
やけを歌ひつゝ暮逝く野路を躍つて歸つて行く子供達にと  
つて西空のあの赤い雲。嗚へ急ぐ鳥。暮れゆく山の姿をし  
てチロチロせゝらぐ流の聲とがどんなに子供の心をはぐく  
み育てゝくれる事か。だからタゴールは又エミールは子供  
を自然の母の手にまかせたのだつた。私達は高遠な教育理

想を考へる前に素朴な自然の心、母の心、雛を庇ふ親鳥の心に歸らなくてはならない。然しそれは恐らく不可能だと思ふ淋しいけれど私の理性がそれを許しては呉れないから。母の姿として教育愛を示現する望みを捨てた、私はベスタロチの言つた様に最上の教師は母であるといふことを肯定仕様をして私は今少し冷静に考へて教師としての最も自然な實行の可能性ある道を發見することに努めよう。

(5) 教育のある可き姿

ビョ、ビョとなきながら歩いて行く雛の群を見てゐると、この様に見える。「兄ちゃん待つてよ。」「早くおいでよ。」一しよに歩んで行く生活巡禮を思ひます。「待つてよ。」「早くおいでよ。」この中にも純な教育の姿がありはしないでしょうか。親鸞は凡ての弟子に向つて御同行と呼びかけた。そして互に慰めたり語りあつたり助けあつたりして生きて行つた。何とガツチリした生活巡禮の姿でせうか。私も子供にとつて慕はしい一人の同行でありたい。又子供は私の愛すべき同行衆でありたい。學校は私達の生活の道場であり私達は生活巡禮の一群である。教育とは生活巡禮の御遍路さんたちが互に交はす友愛のさゝやきです。私は初に言つ

た様に我は教師なりと言ふ自信を得る前に私はやはり私である一個の貧しさ未完成な人間であると自覺したい。そしてあくまで純な平凡な人間として子供の同行として助けあひ慰めあつて生活を續けて行かう。終りにのぞみくり返して言ひます。自分の心がさん然とかどやいてこそ子供の心に輝きを興へ得るのです。蠟燭は自分の身をやけばこそあたりをてらす。自分が燃えて初めて他に火をうつし得るのです。山本有三が早稲田を去る時數萬の學徒を前に残して來た言葉は何であつたか。「然し自己を靜かに反省してみた時に自分は何一ツとして君達にすぐれたものを持つてはゐなかつた。人間山本として自己をふり歸つて見た時に自分は君達にすぐれた何物をも持つてはいないのである。」こう言つて教師生活の悩みを愛する教へ子の前に告白して彼は矛盾に満ちた教育社會を脱退したのでした。教育の仕事こそは私達が天から授かつた最も困難な仕事なのです。あくまでも我々は教ふる器械になりきらずに子供の愛する友達として頼りになる御同行として神聖なる自己の天職に精進して行かう。(終)

國史の本質的學習管見



一 緒 言

歴史の教育的價値は、世論多岐であるが、結局、河野清丸先生の歴史は人生の生活を指導すべく處世方面に役立つといふ指導的價値と、記憶、想像、思考力等の精神機能修練に資すとす、陶冶的價値と道德的價値になると思ふ。然らば小學校に於ける國史料のもつ使命は如何といふに、歴史のもつこの三價値を具備するは勿論なれども、その中の第三にあげられたる道德方面の價値の重要なことは今更いふまでもなく、教則はこの點を明示してゐるのである。

凡そ小學校の教科にして道德方面を念頭におかないものは一としてあり得べきものではないが、之をもつとも鮮明に具現してゐるものは、修身と國史であらう。即ち修身と國史は共に、國民的信念の自覺。之を目標にしてゐるもので

足柄下・宮城野校 加藤 正

あるが、その本質的差異は何處にあるかと考へてみたい。國史の教則をみれば、「日本歴史は國體の概要を知らしめ……」と第一にあるが之が國史の修身と異なる點ではなからうかと思はれる。即ち修身(又は國語に於ても然り)に於て一の史實をもち來つて、その課のもつ使命を完ふすべくつとめてゐることは随分あるが、それはいはゞ、斷片的の史實であつて、一の方便として提示されたもので、國史に於けるその史實の取扱ひとは自ら別でなければならぬ。とは元より論を俟たないのである。

さらば國史料に於ての史實の取扱ひは如何かといふに、元來歴史そのものが、空間に於ける人類の繼續的事象を研究する學である以上、之を考慮しないで國史の授業をなすことは出來ないと思ふ。(元より純正史學と教育的歴史とを



同一視する考はないが、その共通點の没却も亦出来ないことであると思ふ。又私は持論として何れの教科の授業に當つてもその授業の方法はその科目の本質に立脚していきなさい。即ち藝術的色彩を多分にもつた唱歌、綴方等に於てはその學習も、萬事に亘つて藝術的氛圍のみなきつた一時間でありたい。算術、理科等の如き科學的教科にあつてはその説明にあたつても用語に至るまで正確を期し、論理的になしていきなさいと常に思つてゐるが、之を國史の授業について考へてみるにその本質に立脚してあくまでも斷片的、利那的の感激とか情緒とかに支配されずに、指導者はその課、その單元が我が三千年の光輝ある時の流れの系列中の一部分であるといふことを念頭において授業を進むべきであると考へてゐる。このことは教科書をみても高等科に於ては特に必要であるが、人物中心によつた尋常科といへども、教師がこの考で時代の背景、否國史の全野からみての人物として扱ひをなさないといふと修身に於ける例話として扱ひと何等異るところなく、國史科の本質とはいさゝかけ離れていくのではないかと思ふ。

さてこの考を教授の實際に於て如何にあらはしていくか

といふに、この問題が當然わかりきつた問題だけに、その方法も亦何等新味あるものではないが、私の爲しつゝある具體的事項を茲に記して諸賢の御叱正を仰ぎたいと思ふ次第である。

## 二、取扱ひの實際

その方法としては、一、教材の縦斷的研究、二、豫備の部面の重要視、三、板書の整理、四、既習事項の系統的整理五、總括的取扱ひの必要、の五項を私は特に考へてゐるので以上それを述べることにする。

### (一) 教材の縦斷的研究

何れの教科でも、教材の縦斷的研究の必要なることは言ひつくされてゐることであるが國史に於ては前述の意味で殊にこのことが必要である。勿論橫斷的研究として、一教材を扱はんとするとき、その教材と同時代の他の史實との關係をみきはめること、即ちその時代の精神を判然とすることは必要であるが、縦斷的研究として、近くは扱はんとする教材の前、後の課と連絡をよくとり、遠くは國初より尙將來を通じてまでの考察をめぐらして、この教材は如何

なる史實の結果として生じたもので、後に之が如何に發展して、どんな影響を及ぼすかといふことよく教師は研究すべきであると思ふ。

又取扱はんとする史實と同類に屬する史實を國史の全野にながめて、之が史實を比較吟味してその間に於ける時代の推移、及び一般的の法則ともいふべきもの、發見をなすべきである——勿論法則などいふものが歴史の中に求むることは出来難いが……。

尙又この縦觀的研究として私の強く考へてゐることは、特に高等科として文化史の扱ひをなすときに痛切に感ずることであるが、文學、美術工藝、宗教、風俗等といふやうなことをその時代々々について何等の時代間の脈絡をつけず扱ふのみでは價值が半減されてしまふことである。それでどうしても之は、一面時代精神に結付けて扱ふと共に、一面、宗教史、文學史等として一貫したものを教師はまてめておかななくてはならぬと思ふのである。その爲私は「小學校教材としての特殊史の研究」なる小冊子を作つて教授の實際に用ひるやうにしてゐる。

### (二) 豫備の部面の重要視

他の教科に於ける如く、豫備と稱すべき單なる既習事項の復習又は新教材への學習氣分を換氣するといふが如き意味のみならず、もつと一歩くひ入つて、前時間に、前課に前時代に……と前からその教材へ至るまでの大要を。尙國史の系列が兒童の頭に潜在化してゐるのを顯在化して本時の學習事項は我國史のこの部面なりといふことまでわかつてくるやうに教師は心すべきであると思ふ。

特に同じ課の第二時、第三時扱ひといふやうなときには一層豫備に力を注ぐ必要があると思ふ。かくするときは時間の不足をなす虞があるが、それは從來の如く時間の終に於て説話事項を鸚鵡返しに兒童に言はしめることは折角話を以て爲し得た情操を傷つけはしまいかとさえ思はれるので、私は從來の如き整理といふことを重視せず、之を豫備の時間にあて、いはゆる整理は次に述べる如くなしにいきたいと思ふ。

### (三) 既習事項の系統的整理

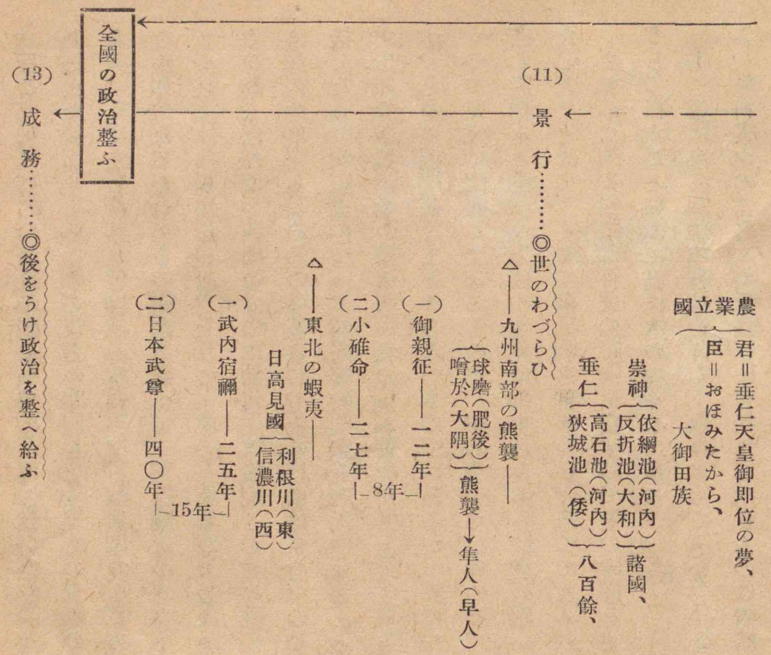
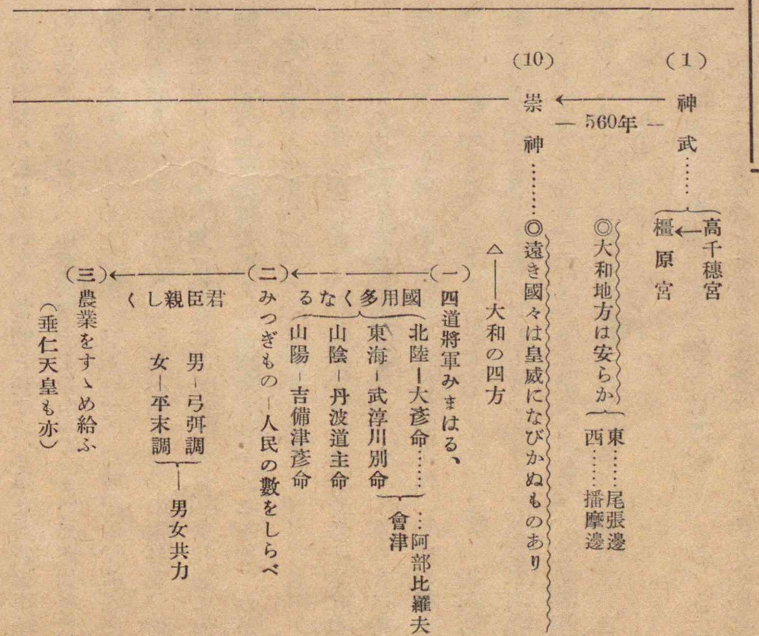
前述した如く整理をその時間の終になさない代りに兒童の家庭作業として、中島光郷氏の編になる年表の如く、學習せし事項を順次年代を追ふて、政治、經濟、藝術、宗教

等の如く類にしたがつて記入させ、尙又教室にもそれと同種のもを教師が作製して、時間毎にその史實の展開する様が一目瞭然なるやうにしておくのである。之についてその實例を茲に示したいが長くなるので省略する。

(四) 板書の整理

板書事項の整理についても事新しく述ぶるまでもないことであるが、國史の如く教材が複雑してゐる科目に於ては特に注意しないと折角の授業も支離滅裂に終つてしまひ、兒童は授業の流れを失ひ頭が混亂してしまふやうなことが、往々にしてあるが、その後板書としては、主眼點と系圖、之を明確に記せば足るといふ論者もあるが、私は之を系統的に整然となしたいと思つてゐる。殊に高等科に於てはその必要を痛感してゐるのであるが、之には可成工夫を要することと教案の中最も重要な部面であると考へてゐる。今最近の例をこゝに記して説明に代へやうと思ふ。しかしこの例は少し詳細に過ぎるが教案の要領としては之だけつまり私はこの例の如く教案の指導事項即ち教材研究をなして授業にのぞみ板書は之よりその骨子をえらんでなすやうにしてゐる……。

高一、第四 皇威の振興



(五) 學年末の總復習

學年末の國史料の取扱ひについては歴史教育の本年二月號に座談會の形式を以て諸家の意見があつたが、私はこの必要なことを前々から感じてゐた一人である。殊に高等二年の兒童に久しく接してゐるので高等科を終る兒童についてこの問題が一層重視すべきものであることをさとつたので、今私の唱へる系統的學習に關聯して考へてみたい。

いふまでもなく、高等二年の兒童は小學校卒業であつていよゝ社會に巢立つので、國民の一員としてこの世に處していかなければならないのである。然して上級の學校に行く者は別として、男生はこの後も補習學校、青年訓練所等に學ぶが、女生は之以上一般的の教育は普通うけるわけではないのである。

然るに現時の世相は國史料に於て一通り取扱へるあれだけのことは、活きた國史として何となく物足りなさを感ぜしめるのである。

又小學校に於ける國史の總復習をなさしむべきである

が、之を單なる復習といふ位の考で學年末の多忙にまぎれ形式的の扱ひにてすませらるべきものではないと思ふ。

そこで私は高二の最後の國史學習にて即ち教科書を一通り終えた後は——いはゆる復習の時間を——現時の世界の大勢、私は之を世界大戰以後とみるが、その世界のうごめきが如何なるものかとの概念を與へて、國際關係のアウトワインだけでも知らしめ、そして、現時の世界の大勢はかくの如くなれば、我國の立場は如何、我國民としての覺悟は如何かを悟らしめるのであるが、その爲には今までの總括をなして我國史についての系統的觀念を確實になさんとするのである。この總復習が私のいふ重要な部面であるが、その要項は甚だまとまらないものではあるが、表につくつて兒童に配布してゐるものが、少し残つてゐるので、若し詳細をと望るゝ方は小生宛に御申込みあらば御送附いたしたいと思ふ。そして御批判を仰ぎたいと思つてゐる。さてかうする爲には可成の時間を費すのでその時間をどうして得るかといふに私は次の如くしてゐる。

(1) 現代史に關する事項を詳しく取扱ふものであるから、教科書中の當然この取扱ひに包括さるべきものは省略

しておくこと。

(2) この扱ひには單なる國史に關することのみならず、現代世相の理解といふ立場からあらゆる科目に亘つて、いはゆる公民的常識とも稱すべきものなるが故に、他の科目の残れる時間を臨時にこの時間にあてること。

(3) 教科書の合理的扱ひ——このことについていろいろ考へてゐることがあるが、他日にゆづる——をなして一月中位にて教科書を終るやうにはじめから授業を進めておく事。

### 三、結語

以上、まとまらないことを、くどくどしく述べたが、要するに私の考は、國史はそれ自身、本質的に一の連續した流れである以上、之を兒童に學習せしむるにも、斷片的に扱ふべきものではないと思ふので、その爲には、教師先づ教材の縱斷的研究をなし、三千年の光輝ある國史の體系を理解し、一教材を扱ふ時にも、或は豫備を無視し、投書の整理に注意し、或はその復習は系統的整理をなさしめる等又學年末（特に卒業兒童）の復習には一貫した流れにまとめさせるやうになし。如何なる場合にも國史の授業に於ては系統的扱ひといふことを念頭より離してはならないと信ずるのである。勿論このことに情操陶冶といふことを忘れず授業すべきであることを附加して擲筆する。



## 果樹園に就いて

### 緒言

神奈川県は年産額三百萬圓内外にして主要生産物の一である。殊に桃（第一位）蜜柑（第七位）の如きは全國的に優位を占め、廣く東京市場其他に搬出せられ蜜柑は近時外國（アメリカ合衆國、英領カナダ、ソビエトロシア）へも販路を擴張し、尙本縣は本邦第一の消費地に近接し且つ大都市横濱川崎を包有する關係上蔬菜、果實等園藝生産物の販路に付き最有利の地位にある、今後は都市の膨張、交通機關の發達による消費高の増加と農事試験園藝部の指導と相俟て益々發達の状態にあるが故に私は陸地測量部發行二萬五千分一地形圖と實地觀察を本とし、尙諸先生の研究を參考して本縣の果樹園の概況に就いて述べる。諸彦の御批正を得れば幸である。

高座・澁谷 飯田 義治

### 蜜柑

〔蜜柑國の分布〕蜜柑の生産地帯は南太平洋岸と日本海岸を含む西南日本の地域に亘る、更に本縣を地域的に考察すれば次の如くである。

- 一、酒匂川地溝帶（中心村落、松田、南北足柄）
- 二、陶綾地塊（大磯地塊）（前羽、下中、吾妻、國府）
- 三、箱根東部海岸臺地（吉濱、湯ヶ原、片浦、大窪、早川）
- 四、三浦丘陵（北下浦、逗子）

### 相州蜜柑の栽培指定地

昭和七年四月の耕地整理出張所長會議の結果産業五ヶ年計劃にて柑橘園の擴張奨励を行ふことに決定し各出張所長が擴張地域の調査をなし具體案を作成した。其の結果判明

した地域は

- ▽三浦郡浦賀(一五)町が單位久里濱(一四五) 北下浦(二二)
- 二) 南下浦(一〇〇) 初聲(四五) 武山(二〇) 西浦(四〇)
- 逗子(一〇) 計三九七町歩
- ▽中郡國府(二五三) 吾妻(一二二) 大根(五一) 東秦野(三七)
- 七) 土澤(二五) 北秦野(二四) 比々多(二〇) 大磯(一六)
- 旭(二二) 南秦野(一一) 大山(七) 西秦野(五) 高部屋(一)
- 秦野(三) 計五九四町歩

合計九百九十一町歩にて前記産地の足柄上、下兩郡を加へれば約二千町歩に達する見込で約百萬圓を超え、現在相州蜜柑として名聲を博して居る。柑橘園の約二倍の栽培面積が出来るとして農村不況の折柄農家救済の唯一の善法として縣當局は非常に意氣込んでゐる。

農業經營の現状  
主教的單一農法は不利)

府縣名	收量(萬貫)	全國收量に對する%	價格(萬圓)
和歌山	一三〇一	二四・五	三七七
靜岡	一〇〇四	一八・九	三〇二
大阪	五三〇	九・〇	一九二
神奈川	四二一	七・八	一三八

府縣名	蜜柑樹數
和歌山	三八二〇五
靜岡	二九七六一
大阪	一八一五五
廣島	一〇二五七
愛媛	九一四五
大分	八二四八
神奈川	七八七六

〔柑橘園と土地〕(地形) 本縣の蜜柑園は概して傾斜地を利用して居る。此の傾斜地は排水良好であつて、冬春の霜害を妨ぎ、概して平地より温度の振幅が少なく、日照よく、空氣乾燥であつて、果樹に乾燥感を與へるから結實充實し品質優れ病虫害にかゝること少なかしめる。傾斜地に於ては南東の傾斜地が最も適し、南西、北東の順位で北と西との間が一番よくない。

(土壤) 土壤は何れでもよいが、最もよいのは硬質埴土乃至硬質壤土の如き排水良好でしかも適度の保水力ある土壤である。

(蜜柑の生産限界)

(水平的限界) 蜜柑は氣温に對する適應は普通であるが、元來亞熱帶乾燥植物であるから、温度に對する感度は鋭くて冬季嚴寒の地には之が植栽を見ない。水平的生産限界は觀賞栽培或は素人栽培の最北限界は關東地方の山麓臺地面より福島南部に一線を劃し得るが營利的栽培の限界は本縣の花水川口以西の陶綾地塊が蜜柑の北限である。低温度の地に成熟せる蜜柑は果皮厚く酸味強くて一般の嗜好に適さない。神奈川縣の蜜柑ですら稍々酸味強く商品として暖地

産のものに劣る。かゝる意味からも營利的限界が北限界をなすのである。

(垂直的限界) 垂直的限界としては本縣に於ては四〇〇米五〇〇米に達した山麓の傾斜地に栽培されてゐる。

府縣名	生産額
北下浦	5,675
松田	25,440
松川	102,784
北足柄	25,500
南足柄	2,000
福澤	11,040
曾我	75,004
下田	45,000
前羽	45,000
國府津	3,600
吉濱	196,853
湯原	130,000
大窪	5,460
早川	220,000
片浦	253,495

梨

〔梨園の分布〕 梨の分布を地域的に考察すれば

- 一、酒匂川洪瀨原(曾我、豊川)
- 二、多摩川洪瀨原(生田、稻田)

〔氣候と土地〕 土壤は相當に深い粘質壤土で底土が排水のよい砂礫土の如き土質が最も適當である。輕浮な土壤より緊つた土壤の方がよく、乾燥する砂質土壤では灌漑の必要がある。洋梨は和梨より生長が強盛で徒長し易いから、排水良好な砂質壤土、礫質壤土の如き土壤がよいのである。

- 一、傾斜地より平坦地の方がよい。

二、風當りの強くない位置がよい。

三、河川の汎濫によつて出來た沖積土がよい。

府縣名	生産額
生田	76,710
稻田	158,200
曾我	14,042
豊川	9,261

〔附記〕神奈川縣の梨は百八十年前から川崎梨として江戸時代に好評を博したものである。川崎市大師町の原産種には長十郎、泰平、幸藏、早生幸藏、早生長十郎、眞鍮等がある。このやうに栽培の盛であつた。川崎地方も近年工業地となり、栽培地は多摩川を北進して橋樹郡日吉、住吉稻田、生田方面に大栽培を見るやうになつた、今日では橋樹郡以外には足柄上下兩郡の金田、曾我、豊川、下府申方面に栽培せらる。

桃

〔桃園の分布〕

- 一、多摩川洪瀨地域(日吉、中原、向丘、生田、稻田)
- 二、湘南砂丘地域(藤澤、茅ヶ崎)

〔氣候と土地〕 桃は温暖な氣候を好むが、割合に耐寒性が強い、土壤は排水良好な砂質土壤が最もよく、重粘土よりは軽い土壤の方がよい、従来桃は瘠薄な土壤に適するとし、好んで砂土に作られてゐるが、かやうな土壤は早く結果を來たし、熟期を早め、栽培は容易であるが、一方收量は少く早老し易いから相當肥沃な土地を選び栽培法にも注意して作るを有利とする。排水が良好でありさへすれば作業が容易な平坦地を可とするが一般には傾斜地は排水良好でありそれが南面すれば温暖である。

日 吉	3,600
中 原	100,000
向 丘	89,932
生 田	46,710
稻 田	43,200
茅 崎	73,503
藤 澤	不 明
豊 川	2,275

〔附記〕 桃傳十郎種は川崎市大島(元橋樹郡田島村大島)で發見せられた。

柿

〔柿樹の分布〕

一、多摩丘陵 (柿生、田原、都岡)

二、相模原 (六會村、澁谷村、海老名村)  
 〔氣候と土地〕 東北地方に進むに従つて甘柿は減じて優良品種は皆澁柿である。甘柿で相當の品を産するのは福島縣以南特に優品を産するのは神奈川縣以南である。柿は乾燥に割合弱いから、軽い土壤よりも多少緊くた、土壤の方がよい最も良い土壤は表土が深く小石の交つた粘質壤土である。保水力の弱い土壤は好適ではないが、併し排水の良好でないところは不適當である。柿は従来傾斜地に多く植えられてゐたが急傾斜地は手入其他に不利であるから平地又は緩傾斜地がよく、傾斜の方向は必ずしも南面の必要がない。

柿 生	19,500
田 奈	4,050
都 岡	1,838
大 山	10,000

其他の果樹分布

(一) 枇杷の日本の分布は静岡、淡路、廣島、長崎等で蜜柑と似て西南日本の一特産をなすもの、如く氣候上特殊な位置

を要求してゐる本縣の箱根山麓の谷に栽植されてゐるのは西風を完全に防ぎ得る地域であるからである。  
 (二) 梅は足柄上、下兩郡に亙る酒匂川地溝地域に分布してゐる所謂小田原梅として出荷してゐる。  
 (三) 栗は多摩丘陵に分布してゐる。  
 (四) 葡萄は各地に小地域に分布してゐる。

宮 前	47,328
向 丘	10,200
都 岡	1,600
小 出	640

曾 我	7,002
川	1,780
北下浦	14,076

参 考 書

- 一、新農業精義 上 佐藤寛次著
- 二、農業科參考資料 上卷 草野徳義著
- 三、地理學評論
- 四、縣民讀本 神奈川縣
- 五、神奈川縣統計書(昭和二年)神奈川縣内務部統計課
- 六、郷土科學(第九號)
- 七、最近神奈川縣勢概要(昭和六年)神奈川縣内務部統計調査課
- 八、吾等の神奈川縣 神奈川縣

(完)

	樹 數			收 穫 高			價 格		
	昭和五年	昭和四年	昭和三年	昭和五年	昭和四年	昭和三年	昭和五年	昭和四年	昭和三年
梅	147770	147605	148784	8146	9940	10359	159877	181785	188599
桃	373636	376118	344371	11934	645736	1211964	510061	864391	685784
枇 杷	18275	16165	17701	39097	33070	36554	28323	30734	35913
梨	157540	167757	170001	1347049	1239043	1170821	363026	420761	414689
	481	474	348	944	1015	1116	538	765	882
柿	127538	118620	122644	586670	1002512	398801	144688	152263	135741
干柿	?	?	?	12330	10124	743	5299	5268	7287
葡 萄	52678	54835	45162	163041	110504	96137	49892	77325	61058
蜜 柑	?	801144	798928	?	3741248	3563830	?	1032758	1023510
ネーブル オレンジ	4255	4160	4148	34140	31464	33287	19637	19134	20732
夏 橙	6344	6355	11630	61201	61108	78804	29632	29765	30460
其他ノ 柑橘類	3595	3699	4138	16029	17512	19838	2941	3719	4131
計	?	1697035	1668009	?	?	?	?	2818744	2609043



# 精神薄弱兒童養護施設について

久良岐・六浦莊 篠 崎 量 平

## 一

文部省主催にかゝる精神薄弱兒童養護施設講習會が去る二月二十二日より一週間開催されました。本校に於ては従前よりこの精神薄弱兒童の身體養護並に精神の發達向上に留意し促進學級補助學級虛弱兒童の養護等の施設をして、これ等兒童の教養に盡力致して居ります不肖校長より該講習に出席を命ぜられました。左に本講習會の講演を要約して左に掲げること致します。

精神薄弱兒の養護と言つても、その範圍は非常に廣いのであるが今回は吾人の當面の努めである學校生活の範圍内に於ける養護施設方案を記すことにします。

## 二、精神薄弱兒童の特別取扱

は何故必要なものであらうか、言ふまでもなく普通兒と

混同して學習させ教授する時は優等兒に重きを置けば普通兒が忽せになり普通兒に重きを置けば劣等兒が忽になることになるのであります。理想は兩者に適合した所謂個人の個性に立脚した教授訓練をなすべきであります、それは所謂理想であつてどうしても低劣兒が學級内に居ることはイ、學級にて迷惑を蒙むることになります。又この様にして低劣兒の教養を怠る時はそれが社會に出て不良少年少女となることは云ふまでもありません。試みに井上前藏相の殺害者團男殺害者等を見ても低劣兒であつた事を知るのであります。その率は十が十と言ふても敢て差支へない程であります。

ロ、不良の卵

社會の落伍者として失業貧困に陥り生活のカテを得る事すら容易ならざる憐れむべき人となるを豫想しつゝ該兒童の養護施設を忽せにすることは遺憾な事であります。どうしてもこの

ハ、精神薄弱兒の救済

に努力致さなければなりません。これ吾人の大なる任務であるのみならず社會上人道至大なるつとめであります。然らばこの兒童を

## 三、如何に取扱ふか

が當面の問題であります。その前に兒童の種別を記したいと思ひます。種別と言つても普通の人と病的の精神薄弱との境は無論ないのであります。メンタルテストで智能の分布と言ふことを考へて見てもどこにその境があるか、どこにもはつきりとしたその境はないのであります。然しその重いものは自ら其處に差別のあることは知られます。これを大體白痴、痴愚、魯鈍の三種に大別致します。

イ、白痴

と言ふのは如何に教育を施しても滿六歳の精神發達に及ばないものであります。然しその中には如何に教育を施して

も全然出来ないもの即ち教化不能の者と否とがあつて輕きものは教育をすれば智能の發達にも違ひは出来ませけれど大體に於て此種のもものは小學校には入り得ないのであります。又小學校の教育には實際耐え得ないものであります

次に

ロ、痴 愚

と云ふ程度の人になりますと教育をすれば六歳以上の程度にはなり得るのであります。痴愚と言ふ程度のものにも差があつて普通之を重症痴愚と輕症痴愚との二つに分ち重症痴愚は尋一當初から普通の教育に耐えないものであつて輕症痴愚は具體的觀念に關する智識が非常に乏しく又その具體的觀念の中にも考のはいつた觀念は發達してゐないのであります。また數に關する智識色彩態方向時關係因果等の考へも常に乏しく殊に工夫推理を要する思考の働き計算就中暗算應用算術といふことは餘程困難であります。

ハ、魯 鈍

は抽象的の概念の發達に乏しく、思考力悪しく、物の眞の理解がつかず年不相應に幼稚の考へや動作があるものであります。又單に觀念智識の發達の不良のみでなく作業能力

或は學習能力も乏しく記憶聯想凡て普通と異なり更に身體上にも色々の異状のあるものが多いのであります。而して小學校に居る低能と言ふものは前述の精神薄弱者のうち白痴重症痴愚は稀で多くは輕症痴愚と魯鈍と病的と認むべからざる劣等兒であります。これ等低能兒と普通兒の中間に位する兒童を中間兒童或は遲滯兒と云ひます。智能指數から言へば七十以下が低能兒で九十以上が普通兒優等兒でその中間即ち七十から九十迄の間の者が遲滯兒童であります。普通魯鈍以下の兒童を補助兒童と稱し中間兒童を遲滯兒童と稱しますがその割合は土地に依つて異なりすが大體補助兒童2%内外遲滯兒童2%内外であります。遲滯兒童となりし原因を考へてみると大低鼻咽喉の障害營養不良家庭の悪しき事情等であります。だからそれ等の後天的原因を除去してやれば智能を促進してやることが出来るのであります。然し補助兒童は原因が後天性でありますから人力にては如何とも仕難く促進は出来ないであります。さて補助兒童と促進兒童とは本質的に異なる故にその取扱は

#### 四、精神薄弱兒の取扱方

と別個にしなければならぬのであります。補助兒童を收

容する學級を補助學級と稱し促進兒童を收容する學級を促進學級といふ名稱をつけて居ります。學校の事情に依つて異なりすが補助學級も促進學級も特別學級として取扱ふのが最も良いのであります。例へば同一學年が五學級あるとすれば四學級を普通學級とし一學級を促進學級或は補助學級とするやうなものであります。然しその邊の所は事情によつて適宜斟酌すべきであると思ひます。然して特別の教育施設を講じその中に於て虚弱兒童身體の發達疾病の治療その他一般教授の方法衛生的施設等に深甚の注意を拂ひつゝこれを教育すれば、該兒童の教養は最も合理的に擴充されることと思ひます。米國に於ては虚弱の程度著しく常に醫療的處置を必要とするものまたは休養安靜を必要とするもの等はこれを林間學校海濱學校の特別學校に收容しその他一般虚弱兒童は前述の特別學級に收容する傾向があると云ふことです。又英國に於ては從來身體虚弱なる兒童は主として之れを特別の學校に收容し而もこのことは既に教育法規に於ても學校教育の一系統として、公認せられてゐたのでそれでこれ等の學校の數も相當に多く存在して居ます、従つて普通學校に於ける該學級の編制の如き施設は米

ります。次に

#### 五、特別學級に收容する兒童の選擇時期

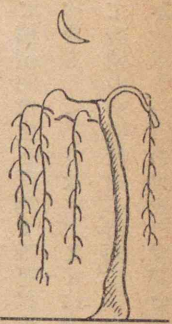
としては尋一學年を準備時期として尋二の初めからこの特別學級を編制するを最も適當と思ひます。(つゞく)

(七三・一五)

國のそれに比し多少發達の後れてゐたるの感があるといふ事です。我國に於てはこの種兒童に對する特別の學校として千葉神奈川大阪等に於て既に開放學校又は林間學校の組織があり近時一般教育界に於てもこの種の施設は相當に認めらるゝに至つたのであるが普通の小學校に於ける特別學級の編制に至つては未だその施設の見べきものが甚だ少ないのであります。然し所謂開放學校林間學校又は海濱學校等の特殊學校を設けそれらに收容することは學校衛生上重要な施設には相違ないが第一費用が莫大であると言ふことと數ヶ月以上の滞在により漸くにして健康を回復せる兒童も再び元校に復し多數の兒童とその生活を共にするに及んでは再び彼等の健康を害する事が多くかくして特殊學校に於ける折角の効果を水泡に歸せしむるやうな事例が尠くないのであります。而も身體虚弱者の健康増進は固より數ヶ月の短日月に於て行はるべきものでなく在校期間を通じて繼續的に之を實施するを以て寧ろ適當の施設と考へらるべきものであります。こゝに於て特別の學校に收容せずして普通の小學校内に特別の教室をこれに當て身體虚弱者のみを以て一つの學級を編制する特別學級の施設が必要であ

#### 愛甲郡教育會講演會

愛甲郡教育會は兒崎高等女學校校長澁谷近藏先生を聘して、滿洲に關する地理教授資料實際的取扱につき、一、二學期に亘りて講習會を開催する由、所謂生命線たる滿洲研究は時節柄頗る當を得たものと云ふべく、殊に十數年間滿洲に教鞭を執りし地理學者たる澁谷氏の講演はその收穫の大なること推して知るべきであらう。



俳句を通して郷土を見る

高座・明治 高橋南

川崎	麥畑やでぬけても猶麥の中	野波	鎌倉	鎌倉は井あり梅あり星月夜	子規
平間寺	川崎や島は梨のかへり花	子規	鎌倉	鎌倉や畑の上の月一つ	同
大師	虫の齒に梵子顯はす若葉かな	平砂	鎌倉	土用干うその鑑もならびけり	同
鶴見	豆咲くや大師詣の人通り	晴可	鎌倉	時鳥なくや鎌倉八幡宮	馬骨
神奈川	さみだれや鶴脛ひたすはし柱	太可	鎌倉	日蓮の法の花咲く南瓜かな	虚子
野毛山	出帆招く遊女も立てり花薄	瓜紅	鎌倉	鎌倉の悲しき山や百合咲きぬ	格堂
金澤	日本をはなるゝ船のかすむなり	出角	鎌倉	銀杏とはどちらが古き梅の花	子規
鎌倉	醉眼に霧深き町の灯かな	文鱗	鎌倉	楠椿嶺の大樹や露時雨	碧梧
	能化堂麥つく僧を景色かな	一茶	鎌倉	鎌倉は夏さへ寒し雪の下	乙由
	島々や鶴のゐる岩に宿借らん	素堂	鎌倉	梅が香にむせてこぼるゝ涙かな	子規
	鎌倉や昔どなたの千代椿	圓覺寺	鎌倉	五月雨や岩むろを悲しみ奉る	虚子
	目に青葉山ほととぎす初鰯		鎌倉	陽炎になるやへり行く古柱	碧童
	鎌倉は浪風もなし鰯釣		鎌倉	避暑に来て參禪したり圓覺寺	

圓覺寺	蟬涼し雷涼し圓覺寺	躑躅	相模	伊豆相模境もわかず花すゝき	子規
屋敷跡	冷やかな鐘をつきけり圓覺寺	涼石	戸塚	一八の東海道も戸塚かな	鳴雪
大佛	白銀の猫も蚤とる藁屋かな	可全	程ヶ谷	戸塚より程ヶ谷へ二里しぐれけり	之道
由井ヶ濱	麥蒔くや鎌倉殿の屋敷跡	葉山	大山	雲霧の袂に入るや雨降山	關更
七里ヶ濱	三日月は臺の裾にかくれけり	大磯	葉山	鎌倉の梟葉山の千鳥かな	格堂
藤澤	名月や海までつゞく段葛	小磯	大磯	祐成が袖ひきのばせ村千鳥	醉佛
遊行寺	風光る七里が濱の電車かな	虎が石	小磯	大磯の大きな富士や春の風	格堂
鶺鴒沼	鶯や表通りに馬の鈴	鳴立澤	小磯	伺候する滄浪閣や虎が雨	鳴雪
片瀬	有難や常世の柱相蓮華	小田原	小磯	呼びつれて星迎へ女や小磯まで	鬼貫
江の島	明け放つ夜寒の門や遊行寺	酒竹	小田原	虎御前は冷たく石の肌	白芙蓉
	秋雨の遊行寺鴨田見下さる	死酒	小田原	こゝらあたり見ゆる物皆秋の風	燕村
	鶺鴒沼の砂地に一本紅葉かな	南柯	小田原	小田原で翁買うたり五月雨	素泉
	霞みけり由井も片瀬も江の島も	子規	小田原	小田原の大火や天を焦しけり	糸郎
	船の腹によりて日永を語りけり	嵐雪	小田原	轉や昔娼家の梅柳	白雄
	江の島や橋の下なるさゞる賣り	疎山	小田原	人の知る曾我中村や青嵐	柑子
	江の島へ女の旅や春の風	坡醉	小田原	道了へ道者絶えざる残暑かな	燕村
	江の島や巖に立ちて夏の月		小田原	あま酒の地獄もちかし箱根山	召波
	江の島の貝店にさす初日かな		小田原	鶯の箱根や伊豆のほととぎす	一茶
			小田原	傘さして箱根越すなり春の雨	



箱根

木枯や馬にものいふ箱根山

洲 香

紫匂ひし藤澤

箱根路やすきに富士の六合目

子 規

「春雨や夢の世にふる墓しるし」興亡これすべて夢、英雄の墓たゞ徒らに苔むすのみ……………

早雲寺

春雨や夢の世にふる墓しるし

平 涼

我々はこれ等の句を一讀再讀して、祖先の魂、自然、呼吸と相融合して無我の境、いひしれぬ恍惚境に浸らせられる

曾我兄弟之墓

卷狩の道や忘れずうつほ草

涼 帚

あゝなつかしき相模の山川草木、麥蘆菜畝、は、沙羅雙樹の花の色、無常迅速涙の跡をはらんで永久に久遠にほゝゑんでゐるのだ。

宗祇の墓

石塔を撫でては休む一葉かな

鼠 尾

慘憺たる經營も蜻蛉の命だつた、四海併呑の雄圖も淀の水泡だつた、しかしその蜻蛉の命、淀の水泡血と汗、熱と

芦の湖

雪解や葦の湖より富士八湖

畔 川

愛はこの相模の土に木に水に永遠に藏されてゐるのだ、我々はこの土、水、木、から意味を見出ださねばならぬ。そして我々の魂の營養とせねばならぬ。あゝなつかしき郷土よ。

二子山

稲妻を後に寒し二子山

旬 光

（六・一二・二二）

二子山

ほととぎす又ほととぎす二子山

三 千 風

「俳句を通して郷土をみる」あながち無益なことではあるまい。古今の俳人が如何なる眼をもつて如何なる所を詠じたか、かう一覽してみると吾人を啓發してくれる點が多々ある。中には單なる寫生に終つてゐるものもあるが内面的

二子山

ほととぎす又ほととぎす二子山

三 千 風

から箱根まで紅紫織り交ぜてまことに一幅の繪卷をひろげるやうな氣がする。チリリカラリは昔の馬車よ今ぢや巷にお次ストツプエ、バスがとぶ……………

二子山

ほととぎす又ほととぎす二子山

三 千 風

「麥畑やでぬけても猶麥の中」文化の煙におほれざる一世紀前の川崎「鶯や表通りは馬の鈴」五十三次の宿場として

二子山

ほととぎす又ほととぎす二子山

三 千 風

爛漫と咲き亂れ居し櫻花今日潔く散りうせにけり

二子山

ほととぎす又ほととぎす二子山

三 千 風

雨止みて今日は見頃とたのしみし花誘ひゆく朝嵐哉

二子山

ほととぎす又ほととぎす二子山

三 千 風

靖國神社臨時大祭をかしこみて

二子山

ほととぎす又ほととぎす二子山

三 千 風

國の爲め花と散りにし益良男を今日祭るなり葉櫻のかけ

二子山

ほととぎす又ほととぎす二子山

三 千 風

大君の御幸かしこみ我もまたはるかに拜む靖國の宮

二子山

ほととぎす又ほととぎす二子山

三 千 風

いさぎよく花と咲きちるますらをのありてぞ永久に國のやすかる

二子山

ほととぎす又ほととぎす二子山

三 千 風

行く春も廻り來る世に住みながらなど我母の歸り來

二子山

ほととぎす又ほととぎす二子山

三 千 風

まさぬ

二子山

ほととぎす又ほととぎす二子山

三 千 風

憂き事の多き此世と知りながらなくさめかねし我心

二子山

ほととぎす又ほととぎす二子山

三 千 風

かな



短 歌

津久井・牧野

小 山 華 雲

朝

戸をあけて只うつとりと大空をあふぎ見しつゝ煙草くゆらす

朝煙草くゆなしながら築山の松になきゐる小鳥きくかな

昨日東風今日春雨に恵まれて櫻のつぼみ赤く芽くみぬ

すかしてもさとしてもきかぬ幼な子の忘れし如く笑ひさゞめく

旅

汽車にのり窓の外見れば目もはるに右も左も桃の花さく

桑も麥も林も森も一面に青葉のつゞく相模原哉

晚 春

高座・鶴嶺

原 湘 雪

母去りて

爛漫と咲き亂れ居し櫻花今日潔く散りうせにけり

雨止みて今日は見頃とたのしみし花誘ひゆく朝嵐哉

靖國神社臨時大祭をかしこみて

國の爲め花と散りにし益良男を今日祭るなり葉櫻のかけ

大君の御幸かしこみ我もまたはるかに拜む靖國の宮

いさぎよく花と咲きちるますらをのありてぞ永久に國のやすかる

行く春も廻り來る世に住みながらなど我母の歸り來

まさぬ

憂き事の多き此世と知りながらなくさめかねし我心

かな

雜 詠

つとめ了へて家路急げば此處かしこ子等走り來て先  
生と呼ぶ

山寺の夕べの鐘の響き來て靜かに暮るゝ春雨の街

高座・大野

山 本 一 朗

さら／＼と若葉せりけるかへるこのそよぎを吾はす  
がしと云はむ

すゞしかる五月の風は若葉せるかへでのうれゆ生る  
るらしも

さかしらに振舞ふ人のさぶしさや花瓶の花にまなこ  
をうつす

雨ふれど風のすさべどいさゝかも動かす在地蔵は  
尊とし

うつそみのさびしさなれや心にはにくみ合ひゐてし  
たし言云ふ

はら／＼と散りくる花のあはれさや散るにつれつゝ  
まなこをうつす

晴れきれる空のまささをさなきつゝも雲雀一匹とけこ  
んで行く

雜 詠

高座・鶴嶺校

湘

雪

連ぎやうや糸をひき／＼蜘蛛下る

勝雞の血まみれし羽根つころへり

藤の房鉢にあふれて地に垂るゝ

重箱の蓋を浮かしぬ草の餅

種蒔きし鉢につけ木の名札哉

雜 吟

一 燈 選

うと／＼と蛙の夢となりけり

宿直の夜を一人きく蛙かな

伸びやかに蛙鳴く夜や草家風呂

いくさ話に兒等の瞳澄みぬ野の霞

樂書の子に葉櫻の洩れ日かな

芥焼の煙のびて居り春の雨

五月雨や無縁佛に香を焚く

花のまゝ植えかへられし櫻かな

お辭儀するうなじ可愛いや入學式

陽炎もうつる卒業記念かな

流れ鞠追ふ詮盡きし茂りかな

つと隠れ鬼遣り過ごす茂りかな

茨茂り上り這ふ蛇の長さかな

日 出

同

同

飛 山

同

葉 影

同

南 柯

同

仙 里

同

同

同

若 鮎

貞 廣 一 燈 選

若鮎の群見送りぬ橋の上

若鮎や出水減りたる川の杭

若鮎の群れて静けき水車哉

堰堤の下に集へる小鮎かな

瀬を上る小鮎の背の日に光る

舟大工上る小鮎に見入りけり

舟に居て小鮎とる鵜を囃しけり

朝河の面を亂さぬ小鮎かな

若鮎の上る早瀬を見送りぬ

佳 句

石多き早瀬にまどふ小鮎かな

若鮎や大山岬々と目に迫る

若鮎や行く手の瀬波目を碎く

福 子

彌 生

春 江

稻 穂

丈 一

間 山

華 雲

羊 村

直 峯

赤 城

早 葉 子

羊 村

瀬の岩の肌をこする小鮎かな  
若鮎の鱗光りぬ水の底

吞海  
直峯

三光

人

若鮎に水光冷ゆる夜明かな

早葉子

地

若鮎や筏下れば上ッ走る

吞海

天

かけ釣をよけてすい／＼小鮎かな

福子

追加

若鮎や夕日に跳どる水の關

大岩に堰き分けられし小鮎かな

次題

茂り三句

三光に薄賞を呈す

締切 六月十五日

投稿は雅號とするも三光入選ありて名乗らるるを便とす

所感



與瀬町外二ヶ町村組合長 井上廣

三月十三日、縣下津久井郡教育會總會を與瀬町桂北小學校に開催せられ、勤績者の表彰が行はれた、理事者として席末に列するの光榮を得たことから、聊所感を述べて祝辭に代へた次第であつた。

情々考へますと世相は日に日に險惡を帯び來れるが如く本縣にすら過般教育社會から、一、二の共產主義者を出しましたことは由々しき一大事なりと考へ偶々、「マルクス」の研究を試みつゝあつた際なれば該思想は社會の根本的破壊なりとの愚見を述べんと將に登壇せんとする利那、役場よりの急使のため遺憾ながらこれは他日に譲ることゝしたのであるが、聊か茲に所感の斷片を掲げて本誌上に謁へるの光榮を與へられんことを請ふた次第であります。

◎優良教員の待遇を改めよ

勤績は、三十年が二人、二十年、十年、十五年が、各一人づゝで、それ／＼の等差はあつたが、まことに麗しき表彰式が行れた。

一くちに、三十年と云ふが、徒や、愚なことでは勤まりきるものではなからう、二十年、十年でさへも容易なことでない、其間、順境にも、逆境にも、幾多の曲折があつても一朝一夕に物語らるるものではない、上官の壓迫、父兄の輕侮、同僚の軋轢、理事者との折衝等、それ等を黙忍した結果に外ならぬので、教育者として、眞に見上げた立派な勤務ぶりと言ふべきである。希くは、今後も自愛自重せられて、刻下の世相に適切なる研智修徳の工夫を施さるることに献身的努力せられんことを切望する次第であります。

當日諸星會長のお話の中に勤続表彰は、若返り良法だといはれたのは眞に穿つた評語であります。

かゝる勤続者こそ其功績を稱へ優遇すべきであるにも拘らず、動もすると新卒業生配置のため犠牲的退職を強いられ、淘汰せらるゝものまゝあることは良に慨嘆に堪へません。

歐米先進國では経験を積んだ圓熟した老成教育者はたとへ七八十の齡を重ねても、羸弱職に堪へぬか、又自ら勇退するのでない限りは、名譽職として、優遇せらるゝときいてゐますが、何と羨しい慣習ではないでせうか。當局は恩給法の設があるから後進のため、止むを得ぬと云はるゝならんもこの道のため、一考を煩はしたいと思ひます。

### ◎活きた教材

今や空前の大不況の結果、農村救済策として教育費の削減は、理事者として止むを得ぬことで、當町も教員俸給や児童賞與費の一部を削り又は祝祭日に與へてきた菓子料の全廢をしたのでした。

これがため、直接に間接に物質方面に影響を及すことは

甚大であります。實際農村に於て、賣る物は安く、買ふものは高く、剩へ諸税は高み、滞納が増すのみだからこれが續けば教育どころか食はせることさへ困難に陥るといつて、叫びわめいて居るのは、無理もないと思はれます。

是が應對策としては極力節約する外ないのである。それで祝祭日に菓子省いたことも、教育上節約と云ふ徳目を教授するに生きた教材ではあるまいか、よし物價が低下したからとて若し不平不満が生ずる如きことありとせば児童にも、自然恐るべき悪感化を及すが故に、そこに教育者の注意すべき事柄が横つて居る場合もあります。

これは一例に過ぎませんが學校が村治に協調すると謂ふ立場から教育上の活教材を得ること多く又さうして機會を把へることに平素心掛けて戴きたいことを待望する次第であります。

### ◎愚につける薬を發明せよ

國民教育の現在の通弊は、都鄙一般に、六學年を卒業すれば父兄は教育義務を完了せりと心得、實力の如何を問はず早く卒業を希望する結果、所謂おなさけ及第とか、おな

さけ卒業もあるから、實社會に出て、何の役にも立たぬものも、往々ある、然るに父兄達は自分等の無識は棚に上げて置いて、學校では、毎日何を教へて居るのだなどと、非難攻撃するものも多々ある。

實際相當の學力がなければ、卒業も及第もさせぬよう嚴格にやれば、被教育も父兄側も懸命に努力するから敢て八年制になくも充分であるやうに考へられる。

國民に必須の普通智能を徹底的に教授して、各自に具せる、天賦の才能を開發し、適材を適所に立たしむべく指導するのが、教育の眼目たることは、勿論であるが、都會地などでは六學年擔任になると、學校は往々にして富商權門の請ふまゝに其の子弟のために毎日入學準備をこれ營み其餘は低能抜ひ貧困呼はりしてとても中等教育は不可能だなどと輕蔑し自學と稱して不親切な放任教授をして、更に顧みず、國民教育の何たるかを忘却するものありときく、誠に淺ましい事實ではないか。

優良生は放任されても、相當な成績を得らるゝが、劣等兒は人一倍の馬力をかけてやらねばとても普通な成績は望めない。

抑も小學時代の成績を以て、將來を卜することは不可能であつて幼時稱讚された神童が、成長しては平凡人と變はり却つて低能視された子供が、他日有用の材となつた例は枚舉に遑ない程である。

愚は移らざるものに違ないが、丁寧懇切に開發指導して「ベスタロジーン」の如き大教育家の精神に適ふ事になる。

彼の東郷元帥閣下、少年の時、大西郷の門下生であつた時は、平凡で愚物視せられたことや、私の三男の小學時代は、大の泣き虫で、低能兒扱を受け、受持先生から、父兄會ある毎に注意受されたので、暇あるたびに自宅で懇切丁寧に教へしところ、六年卒業の際は首席を占めるに至つたこれは不遜の例であります。低能兒教育法につき一段の御研究を希望するものである。

### ◎實行に重きをおけ

成績優秀で、級長に選舉せらるゝ児童でも、家庭に在つて、父母、祖父母に反抗し、弟妹を虐げ、又途中朋友をいじめ等品行のもの多々あるから單に先生の命令を遵奉するとか、成績拔群だといつても、とんでもない誤が起る

から、時々父兄會を開き、或は常に家庭訪問を行ひ、學校の教訓を實行し居るや否を慥め、言行一致せるものを選擧すれば不當選の虞もなく、又父兄の譏をも、免るゝであらう。

近時高位高官に居ながら、罪を犯して縲綆の優目に逢ひ、或は高等教育を受け、共產主義を唱ふるものあるは、益々知育を重じ、徳育を輕じた、幼時教育法の缺陷に基くのではあるまいか。

だから、小學時代の基礎的教育組織を改善して、言行一致、即ち實行に重きをおき、自己の良心に生き。このものなら、安心だと信用の措ける人物を造るのが、教育の大主眼である。

言ひ換へれば純忠潔白な日本魂の所有者を成るのが、我國民教育の根本であることを忘れてはならぬ。まことに斷片的につまらぬことを述べ、所謂釋迦に説法の罣りは免れないが聊か卑見を述べた次第であります。



▲國語讀本卷四俳的表描

高座・明治

高橋南柯

麥まき 手を腰にやつとすんだの祈りかな

白ウサギ がまの穂のよみがへりけり神の愛

すゝはき 一年の俗塵拂ひ夕寒し

大工小屋 芳しき木の香にむせてつみ木かな

扇のまと 弓の神與一の指にうつりけり

一本杉 敗殘の落人はふる夕陽かな

汽車の旅 トネルを出で蒼海の大汽船

會我兄弟 五月閣光る孝心かくし得ず

(六・一一・二九)



彙

報

教育會報

昭和七年度縣教育會  
代議員會議狀況

縣教育會代議員會議は四月十八日午後一時四十分より縣會議場に於いて開催された、是より先き當日午前中は理事會議を以つて、代議員會議上程案件の打合せをした會議次第左の如し。

一、議 事

- 一、開會ノ挨拶
- 二、事務報告

開會 吉田主事開始を陳ぶ

議長 只今から次第書によつて代議員會を開きます、實は

- 本會議は昨年度三月末に開會すべきでありましたが會長の交迭があり、新會長も續いて榮轉さるゝと言ふ様な譯でそれに田島會長は就任當時深い御考へもあつて諸君と親しく教育上の懇談をしたいと言ふ希望から態と三月の多忙期を避けられて自然延期になつたのでしたが偶々再度の轉任で延引に延引を重ね
- 三、昭和七年度歳入歳出豫算ノ件
- 四、昭和五年度歳入歳出決算ノ件
- 五、會長一名副會長二名選出ノ件
- 六、會則改正ノ件

まして甚だ申譯がありませんでした、それに次第書中會則改正と掲げてある如にそれらに就いて本會議に提出すべく熟議のため暇をつた譯であります、これとても今回は別に具體案を掲げて討議を願ふまでに到らず、只現在の教育會を一層向上させるには如何に改善すべきかの隔意のない御意見の交換を願ひたい積りであります。

それで大體四時頃に閉會しあとで、粗末ながら晚餐を差上げた用意でありますから、其積りで充分に御協議を願ふことに致したいと存じます、開會にあたり一言御挨拶を申述べます、それでは事務報告を致させます。

## 二、事務報告

吉田主事次の事務報告を爲す

報告終りて齋藤篤太郎君議長と呼ぶ。

齋藤(篤) 事務報告中にある感謝狀贈呈は眞に結構なところかと思ひます、由來吾々教育者の末路といふ者に關しては考へさせらるゝ事が多々あるのであります、がそれに對してこの仕事は特筆大書すべき立派な事業であつたやうに存じます、又近來本會雜誌が其の

内容記事に於いて一段の面目を改めてきたことは甚だ愉快を覺ゆる次第であります、が特に本會理事諸君が自ら執筆さるゝの熱心振りには敬服に値へするものと存じます、いろ／＼本會の改造についても先頭理事諸君は他府縣を御視察になつたやうに承知いたしてゐますが願くは本席でその視察中参考となるべき大體でも承はることを得れば甚だ好都合かと考へますが

守屋理事 千葉縣教育會視察の概要を話さる。

議長 昭和七年度歳出入豫算に移ります。

主事 全項目に亘る逐次の説明をさけて本年度豫算編制の主目的、ねらひ處を申述べること致したいと思ひます、先づ歳入の部の講習料五〇〇圓減は學科講習會の度數を減じたのと、雜誌代七五〇圓減は歳出の部の事業に深い關係を有つてゐますから特に御注意を願ひます。

次に歳出の部で、先づ事業費の中 編纂費百六十圓増であります、之は從來の雜誌發行を新聞型に更めて約毎月二回の發行とし、且つ無料配布と致し

たいのであります、即ち歳入の部の七百五十圓はそれなのであります、それがため自然、從來餘り成績の振はなかつた講習講演會費等を若干削減することになつたのであります。

つまり機關紙に事業の全力を投ずると言ふのが本豫算の骨子であります。

次に表彰費であります、これは事業報告の所で申述べた通り、既に昨年に於いて試みられたことでもあり今後とも必要な事業と考へ新設したのであります、これで大略の説明を終りあとは御質問に應じて御説明申上げること願ひます。

齋藤(篤) 從來つまり雜誌代をとらないと言ふことは、新規の發行物を無料配布にすると言ふことなのですね。

主事 左様です、それで新刊のは最初四千部印刷したいと思つてゐましたが理事の意見として二千部位では如何かと言ふことで初めての試みでもあり、豫算も切りつめてゐますので御尤もと存じまして二千部と致す考へです、然し廣告料が従前よりは可成収入増になるかと察しますが幸にも豫想通りに参りますれば

四千部も五千部も刷りたいと思つてゐます。

星野 豫算尻に「豫算ノ各科目ハ會長ニ於テ適宜流用スルコトヲ得」とありますが、科目とは全部に亘つての意味でありますか、小科目のをでありますか、全部の意味でありますか。

議長 流用が全科目の意味であるとすると代議員會の決議は殆ど無効になりはしまいかと考へますから如何かと存じます。

星野 従前通りで差支へないかと思ひます。

結城 御意見の相違がありますから裁決いたします。

議長 但書を削除する説と、現存説との賛否は如何ですか、一寸「科内ノ流用トシ」但書全部は現存することにしては如何。

星野 欸項目に三分し、然して項は云々目は云々とするを形式上當然と思ひますが、今年度はこのまゝに來年度豫算から改めることにしては如何。

會根 厳密に考へると不可ないが、流用の範圍が大なる様に考へるから來年度整理しては如何。

金子 齋藤(篤) 本年度だけの條件づきで原案賛成いたします。

溝口 本年度の視察費の三〇〇圓を半額に削減せられたのを遺憾に思ひます、吾等は千葉埼玉の如な縣内は勿論、南洋、支那の海外に迄視察してはと思ふ位で、即ちモット視察獎勵の意味で三百圓計上されてはと思ひます。

尙今回山崎博君の渡歐に對しても本會として相應の援助ありたきことを希望してゐます。

議長 溝口君の御意見は後廻しとして、本問題に就いての裁決は如何ですか。

星野 來年度から改正することに賛成致します。

全會 一致

議長 溝口君の御意見は今後なるべく御意思に副ふやうに考慮することに致します。

豫算に付御異議がなければ全會賛成と認めて宜しう御座いますか。

全會 異議なし

議長 次に五年度歳出入決算に移ります。

主事 概略御説明致します。

豫算、決算に大きい狂ひを生じましたのは臨時事業

として縣民讀本發行のためで即ち雜收入の比較増、編纂費の比較増はそのためであります、その餘は豫算と決算の出入りに大した狂ひはないのでありますから其積りで御覽を願ひます。

齊藤(篤) 資産現在高の保管は如何なつてゐますか伺ひます。

主事 それは三千圓は債券で一千八百三十一圓は現金及當座預金になつてゐるのです。

金子 今日の様に突然の提出ではなにがなにやら分りませんから豫算決算を前以つて代議員の手許にお送り下さるやう願ひます。

議長 出來るだけ其の方針に致します。

高田 決算を前々年度でなく六年度の報告するやうされては如何

議長 それは種々の關係上現在の處では不可能です。

六年度分としての支拂受入れが未だに未済の者がある位ですから、五年度決算に異議はありませんか、なければ全會一致可決されたものと認めます。

次に會長及副會長選舉に移ります

金子 動議として詮衡委員を設けられたいことを提議します(賛成者あり動議成立)

議長 委員數と委員選出方法に就いては(金子氏に)

金子 委員數は五名位議長の指名にしたいと存じます、

齊藤(篤) 委員數は各郡市一名としては如何ですか

清水 元來この問題は第一に實體論的にか形式論的にか即ち官界から民間から孰れからみて選舉すべきかを先決すべきではないでせうか。

金子 何れにしても慎重審議を願ふ積りであります。

星野 私は各郡市一名説に賛成いたしますが更に中等學校側からも委員として三名位を加へては如何ですか

(齊藤篤君賛成)

議長 御説が二つある様ですが、即ち五名説と各郡市一名外に中等學校側委員を加へる説とですが、裁決いたします。

第二説に多數賛成者あり

右に依り議長は左記委員を指名す。

- 横濱 金子政太郎氏
- 横須賀 佐々木章治氏

議長 休憩を宣す。(三十分)

再開 議長 河邊氏清水氏を座長に推す旨を陳べ退席す。

議長 詮衡委員長清水氏議長席につき、報告す。

- |         |         |
|---------|---------|
| 川崎      | 間宮仙之助氏  |
| 久良岐     | 角田武夫氏   |
| 三浦      | 福田縫太郎氏  |
| 橘樹      | 齊藤篤太郎氏  |
| 都筑      | 白井喜久氏   |
| 高倉      | 土方義道氏   |
| 鎌倉      | 森久保敬次氏  |
| 中郡      | 小泉健作氏   |
| 愛甲      | 平本善國氏   |
| 足柄上郡    | 瀬戸保男氏   |
| 足柄下郡    | 久野春光氏   |
| 津久井     | 諸星一三氏   |
| 農業學校    | 清水勝雄氏   |
| 平塚高女學校  | 五十嵐米八郎氏 |
| 横濱第一中學校 | 守永京江氏   |

私は委員長として會議の経過を御報告いたしたいと存じます、委員會としてはいろいろの意見が交換されたことでありましたが、就中、會長、副會長を從來の如く官吏より選出する官吏説と、次に民間説とがありましたが、とにかく理想としては民間説を認めるものであるが、扱て實際問題として然らば何人をと謂ふことになる、そこに適任者がないと謂ふ次第でありまして決極矢張従前通りにするよりほかあるまいと言ふので。

新學務部長を會長に新教務課長を副會長に新師範學校長を副會長と言ふことを是認し之を吾々の委員説として御報告する次第であります。

で、この案につき諸君の賛否を御諮りいたします(満場一致賛成)満場一致賛成御下さつたものと認めます。

## 主事

只今新會長及副會長が選舉確定いたしましたから、席を更めて開會致すことにし、新會長副會長を御紹介致いたします。

河邊新副會長登壇挨拶あり、續いて新會長外山學務部長と新副會長佐藤師範學校長とを紹介それらの

挨拶があつた。

## 議長

(河邊副會長)

引續き開會議事を續行いたします

會則改正の件に就いて、この案は先年來の懸案でもありましたが、それは會の組織を個人にするか團體にするかと云ふことであります、御承知の通り現在の構成分子たる郡市教育會を解體して個人的構成組織とするには、各地方團體としては夫れ々の傳統と歴史を異にしてゐる關係上なかなかむづかしいのではなからうか、

然し個人が自分等の教育會だといふ認識を高めるためには個人的組織を可とするは勿論であるがさればとて之が具體案としてはなかなか妙案がないと言ふ事にもなる。

然し理事と言ふものを半數位選舉制にする位は従前の會長專斷に較べると意義のあることにも考へるので、マア本案はその位の處を根本として諸君の卒直な御意見を伺ひたいのであります。

石川

私は第一條の改正意見を申し上げたいのであります、

第一條の文句の中には教育團體としての熱情の乏しいといふ感があります、團體が温き情を以て一般教育者への援助とか胞芽を養ふやうな意味を含めてほしいと思ひます、と申しますのは、最近の經濟界の不況の如き影響が祟つて教員が其の地位を失墜したり又我々教育者の權威が或者のため、とかく蹂躪せられがちであつて甚だ遺憾とする所でありまして吾等は茲に大同團結して當らなければならぬことを強く感ずるものであります、さうしたことから教育擁護のための意味をも第一條に附加して又それに副ふ事業をすと言ふことでありたいと思ひます。

齋藤(篤)

又代議員會の職能を明瞭にすること議決機關か否かの職能の明記なきは不可と思ひます、これらの點を明瞭にする必要があるかと思ひます。

星野  
第七條第一項の精神をもつてみれば第二條は不合理であるやうに思はれます例へば田島前會長の如き場合とすれば一年數ヶ月に亘つて理事會の推薦効力が認められるのですが、

それがと／＼會長の囑託をうけた理事が會長を推薦するのであるから不妥當だと思はれるのであります、この邊は公選の趣意の通ずるやうに改めたい。次は顧問としてつくすべき職能を明記してほしい、

金子

第七條は星野君と同一意見で至極賛成であります。

ザツクバランに愚見を申陳べてみたいと思ひますが只今承はりますと本會則改正に關して研究されて居



る相であります、私が考へてをる處によりますと  
 縣教育會は元と郡制時代の遺風を傳へたものゝ様に  
 各郡市を指導するこれが最初の縣教育の精神でそれ  
 から言へば縣教育會はもつと社會に對して貢獻され  
 てゐた、又しなければならぬ、それには今度は内  
 容的に會員を個人組織にすると言ふ必要がある、處  
 がこの個人か團體かを内容的に考へると種々の困難  
 があり相である、それから理事を各郡市から出すと  
 言ふことにするかその通に行かなければ昔の通り行  
 かないのではないか、これらはどの邊まで實現の可  
 能性があるかどれ程迄考へるか一寸私自身としても  
 纏まりがつかねるのであります。

座長

大體改正意見もつきた様で、時間も四時過ぎになり  
 ましたのでこの邊で閉會致したいと思います。

閉會

(議長閉會を宣す)

閉會後食堂にて會食會長同席觀談二時間餘にして退散  
 當日出席者左の如し

役員側

河邊 良平君  
 瀧澤 又市君

代議員側

横濱

川 横須賀  
 崎

秋山 岩吉君  
 齋藤 元進君  
 會根 藤三君  
 坂田 祐君  
 森 丑太郎君  
 仙田 四五郎君  
 佐々木 章治君  
 結城 權兵衛君  
 杉崎 正義君  
 守屋 貫雅君  
 福田 縫太郎君  
 吉田 主事

秋山 兵三郎君  
 金子 政次郎君  
 高田 文哉君  
 魚田 良彰君  
 佐々木 章治君  
 間宮 仙之助君

石川 明雄君

加盟學校側

久 良岐	溝口 顯吉君	遠 藤 明君	藤澤 高女校	西 宮 旭君
三 浦	角田 武夫君	福田 縫太郎君	厚木 中學校	黒土 四郎君
橋 樹	齋藤 篤太郎君	松本 重郎君	女子 師範	江端 嘉郎君
都 筑	白井 喜久君	土方 義道君	平塚 農業	清水 勝雄君
高 座	森久 保敬次君	小泉 健作君	縣立 工業	仙波 昇作君
録 倉	重田 政二君	沼田 三郎君	平塚 高女校	五十嵐 米八郎君
中 郡	草山 忠八君	平本 善國君	第三 中學校	高 田 徳君
愛 甲	杉山 政治君	瀬戸 保男君	商工 實習	山本 政人君
足柄 上郡	久野 春光君	星野 増藏君	厚木 高女	大野 佐吉君
足柄 下郡	津 久井	諸星 一三君	湘南 中學校	赤木 愛太郎君
津 久井			兒崎 高女校	澁谷 近藏君
			鎌倉 師範	佐藤 禮六君
			横濱 第一中學校	守 永 京江君
			平塚 第一尋常校	三 賢 三郎君
			農 蠶 學校	森 耕 一君
			横濱 第二中學校	三 森 濱吉君
			計	五五名

# 昭和六年度會務報告

本年度内ニ於ケル會務ノ狀況左ノ如シ

## 一、代議者等派遣

### 一、全國聯合教育會

六月十七日ヨリ三日間東京市ニ於テ開會ノ第十七回全國聯合教育會ニ本會ヨリ代表員トシテ守永横濱第一中學校長・森足柄小學校長及高城主事ノ三名ヲ出席セシメタリ  
尙同會常置委員會ニ高城主事ヲ出席セシメタルコト四回

### 一、關東聯合教育會

十月十四日ヨリ甲府市ニ於テ開會ノ第二十六回關東聯合教育會代議員トシテ結城女子師範學校長・星野小田原第一小學校長・山崎田島小學校長及吉田主事ヲ出席セシメタリ  
尙同會常任委員會ニ高城主事ヲ出席セシメタルコト五回

### 一、全國女教員大會

昭和六年五月十六日東京市ニ於テ開會ノ第十一回全國女教員大會ニ本會ヨリ逗子小學校訓導永島コト外三名ヲ出席セシメタリ

## 二、退職者ニ感謝狀等贈呈

二十ヶ年以上本縣ノ教職ニ從事シテ退職シタル者ニ對シ左記ノ通り感謝狀及記念品ヲ贈呈シタリ

- 一、二十ヶ年以上 十六名 感謝狀及木杯一個
- 一、二十五ヶ年以上 二十二名 感謝狀及銀杯一個
- 一、三十ヶ年以上 十九名 感謝狀及銀杯一組

## 三、講演會

六月十三日參謀本部第二課砲兵大尉吉田權八氏ヲ聘シ小田原町ニ於テ防空ニ關スル講演會ヲ開會セリ  
尙同講演會ノ講演要領ハ「パンフレット」ニ作り各郡市教育會共他ニ配布セリ

## 四、講習會

一、小學校本科正教員養成學科講習會ヲ夏季ニ於テ三十日間、冬季ニ於テ十四日間神奈川縣女子師範學校ニ於テ開會セリ  
一、尋常小學校本科正教員養成學科講習會ヲ夏季ニ於テ三十日間、冬季ニ於テ十四日間神奈川縣師範學校ニ於テ開會セリ

## 五、研究獎勵

理化學研究會橫濱支部ノ事業ニ對シ研究費ヲ支出セリ、夏季開會ノ文部省主催講習會ニ研究費ヲ支出シテ出席セシメタルモノ八名

## 六、懸賞論文募集

產業教育ニ關スルモノ及郷土教育ニ關スルモノ各一題ノ懸賞論文ヲ募集シタルニ應募者二十六名、審査ノ結果二等三名、三等三名ニ各賞金ヲ贈リタリ

## 七、視察

五十嵐平塚高等女學校長ノ南洋出張ニ際シ本會ハ同氏ニ南洋諸島ニ於ケル邦人兒童ノ教育狀況視察ヲ囑託シタリ

## 八、編纂

本年一月本會役員ハ二班ニ分レ埼玉縣及千葉縣ノ教育會ノ組織及事業等ヲ視察シタリ

## 九、役員ノ更迭

會長九鬼三郎氏ハ十二月二十八日、副會長村上寬氏ハ九月二十二日何レモ轉任ノタメ辭任セラレタルヲ何テ一月九日理事會ニ於テ會長ニ田島義士氏副會長ニ河邊良平氏ヲ推薦セリ  
副會長田島義士氏ハ一月九日辭任セラレタリ  
理事瀧澤又市氏外十八名ハ六月十四日ノ任期滿了ニ付八月十日瀧澤又市氏外十八氏ニ新ニ理事ヲ囑託セリ  
主事橫溝今次郎氏ハ六年三月三十一日付辭任セラレタルヲ以テ五月十五日吉田清太郎氏ヲ主事ニ任ジ同日就任セリ  
田島義士氏會長辭任 以上

# 昭和七年度神奈川縣教育會歲入歲出豫算

## 歲入之部

科 目	本年度豫算額	前年度豫算額	比較増	比較減
一、負擔金	1,500	1,500	0	0
二、分擔金	600	500	100	0
三、補助金	1,100	1,100	0	0
四、講習料	1,100	1,100	0	0
五、雜費	—	200	—	200
六、檢印代料	3,200	3,200	0	0
七、雜收入	300	100	200	0
八、前年度繰越金	3,000	3,000	0	0
計	8,700	10,700	—	2,000

附 記  
四月末日現在教員數ニ割合各郡市教育會負擔

教員養成學科講習會一人金五圓 延百六十人  
一人金四圓延八十人

廣告料及預金利息

一、會議費	140
二、役員會費	70
三、代議員會費	50
四、講習會費	1,600
五、講演會費	100
六、研究會費	400
七、表彰費	300
八、視察費	300
九、編纂費	1,400
十、諸給與	2,600
十一、俸給	2,100
十二、旅費	300
十三、雜費	300
十四、需給	300
十五、備品費	50
十六、消耗品費	50
十七、通信運搬費	110
十八、雜費	20
十九、豫備費	1,410

歲出之部

本年度豫算額	前年度豫算額	比較增	比較減
140	140		
70	70		
50	50		
1,600	2,600		1,000
100	100		
400	200	200	
300	300		
300	300		
1,400	2,100		700
2,600	2,100	500	
300	300		
300	300		
1,400	2,100		700
2,100	2,100		
300	300		
50	50		
50	50		
110	110		
20	20		
1,410	10,000		8,590

附記

役員會辦當其他七回分  
 代議員會辦當其他  
 講師謝儀會場費其他二ヶ所各二回分  
 講師謝儀會場費等  
 各學科研究會等ノ講師謝儀懸賞論文募集等  
 委員旅費調查物印刷等  
 學事視察補助等  
 雜誌廿一回七十五圓編纂顧問委員手當一七〇、學習帖三〇〇、職員錄一〇〇圓其他三〇〇  
 主事書記三名一名一ヶ月六十圓平均  
 役員出張、代表者派遣等  
 主事書記賞與及給仕手當  
 本箱椅子書籍等  
 筆紙墨等  
 郵稅及電話料  
 聯合教育會加盟費外客接待費

昭和七年度負擔金各郡市教育會割當表

本豫算ノ各科目ハ會長ニ於テ適宜流用スルヲ得ルモノトス

郡市名	教員數	負擔金
橫濱市	一、五一一	一、四七四
橫須賀市	二五三	二二〇
川崎市	二八四	二五〇
橋樹郡	一七〇	一六七
都筑郡	一八九	一八一
久良岐郡	五〇	四八

神奈川縣教育會昭和五年度歲入歲出決算

一金壹萬貳千八百拾參圓〇四錢  
 一金壹萬壹千〇拾圓  
 一金壹萬〇九百參拾貳圓四拾錢  
 金壹萬壹千〇拾圓  
 差引金壹千八百八拾圓五拾八錢

歲入之部

歲入 歲入 歲入 歲入  
 歲出 歲出 歲出 歲出  
 剩餘 剩餘 剩餘 剩餘  
 金額 金額 金額 金額

三浦郡	三九六	三七九	一一六、〇〇	一一三、七〇
鎌倉郡	二八一	二七九	八二、三〇	八三、七〇
高座郡	四九九	四九八	一四六、二〇	一四九、四〇
中郡	五四二	五四一	一五八、八〇	一六二、三〇
足柄上郡	二三二	二五二	六七、九〇	七五、六〇
足柄下郡	三八三	三七六	一一二、二〇	一一二、八〇
愛甲郡	一八八	一八七	五五、〇〇	五六、一〇
津久井郡	一四三	一三八	四一、九〇	四一、四〇
計	五、一一一	五、〇〇〇	一、五〇〇、〇〇	一、五〇〇、〇〇

科	目	決算額	豫算額	比較増	比較減
一、	郡市教育會負擔金	1,500.00	1,500.00		
一、	會費	592.76	500.00	5,76	
一、	補助金	2,125.00	1,500.00		2,550.00
一、	講習料	821.00	1,200.00		760.00
一、	雜誌代	210.30	200.00		79.30
一、	雜印料	3,000.00	3,550.00		530.00
一、	雜收入	4,732.92	1,000.00		
計	前年度繰越金	11,131.00	11,010.00	1,201.00	

歲出之部

附記

學術講習會ヲ開會セザリシニ仍ル  
 補習學校用書ノ賣行ナカリシニ仍ル  
 縣民讀本及職員錄ヲ直接販賣シタルニ仍ル

科	目	決算額	豫算額	比較増	比較減
一、	會議費	73.21	100.00		136.79
一、	總會費		100.00		100.00
一、	代議員會費	47.92	50.00		2.08
一、	役員會費	26.00	100.00		74.00
二、	事業費	7,533.57	7,000.00	533.57	
一、	講習會費	1,151.66	2,000.00		848.34
一、	講演會費		100.00		100.00
一、	研究協議會費	36.97	100.00		63.03
一、	調查費	87.57	500.00		412.43
一、	研究獎勵費	110.00	300.00		190.00
一、	視察費	30.00			

附記

主トシテ學術講習會ヲ開會セザリシニヨル

科	目	決算額	豫算額	比較増	比較減
一、	編纂費	5,933.37	3,100.00	2,833.37	
三、	諸給與	2,681.57	2,700.00		58.43
一、	俸給	1,680.00	1,680.00		
一、	旅費	249.57	30.00	219.57	320.00
一、	雜給	731.00	30.00	701.00	100.00
四、	需要費	278.77	300.00		71.23
一、	備品費	14.50	100.00		135.50
一、	消耗品費	111.01	100.00	11.01	
一、	通信費	151.26	110.00	41.26	
五、	雜費	334.63	350.00		15.37
一、	雜費	334.63	350.00		15.37
六、	豫備費		110.00		110.00
計		10,933.47	11,010.00		77.53

縣民讀本ヲ發行セシニヨル

主トシテ多年勤續セシモノ退職セシニヨル

歲入歲出剩餘金壹千八百八拾圓五拾八錢ヲ處分スルコト左ノ如シ

金 壹 千 圓  
 金 八 百 八 拾 圓 五 拾 八 錢  
 資 產 現 在 高  
 資 產 ニ 編 入  
 次 年 度 へ 繰 越  
 前 年 度 ヨリ 繰 越  
 五 年 度 決 算 剩 餘 繰 越 入  
 金 參 千 八 百 貳 拾 壹 圓 〇 參 錢  
 金 壹 千 圓  
 計 金 四 千 八 百 貳 拾 壹 圓 〇 參 錢

### 教員互助會

## 會費取扱手續改正に就いて

- 一、會費は毎月各學校に於て委員之を徴收す
- 二、委員會費を徴收したる時は別紙様式の領收簿に領收年月日を記入捺印し本人に交附す
- 三、委員は其月徴收したる會費を翌月三日迄に振替貯金に拂込むべし

振替貯金に拂込む場合には拂込用紙の通信欄に總計金額月別及び納入者の各氏名を記入すること

- 四、本會に於ては振替貯金課より拂込通知票を受けたる時は總計金額を記載したる領收通知を委員宛發送す
- 五、現金を直接本會に拂込む場合は従前の通
- 六、本會に於ては毎年三月末日現在甲種會員の入會以來の會費納入現在額調を各學校毎に作製して四月末日迄に各委員に送付す

「改正要旨」 従前の規定は委員に於て會費を本會に送付する場合に振替貯金に拂込むと同時に別に會費の送付書を

作製して送付する規定なりしを振替貯金の振替拂込用紙の通信欄に詳細を記入するに止め其の手数と費用を省き又毎年各會員の納額總計額を知るに足る現在高調を作製して各學校に送付して正確を期するにあり  
現金を直接納入する場合には従前の規定と同一なりとす

## 社團法人神奈川縣教員互助會

### 昭和六年度歳入歳出現計表

( 昭和七年五月十五日現在 )

科 目	歳 入 之 部		備 考
	收入額	豫算額 比較増△減	
一、會費	三三三、八七〇	三三三、八七〇	△一、四〇一、一〇
二、補助金	一〇〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇	—
三、寄附金	—	一〇、〇〇〇	△一〇、〇〇〇
四、利子	四一、五二六	四三、三〇〇	△一、七七四
五、雜收入	—	一〇、〇〇〇	△一〇、〇〇〇
計	三七七、三九六	三九〇、〇〇〇	△一、六〇三、九〇

### 歳出之部

内金百七、八拾圓尙支出見込  
以上差引金約壹萬八千圓弱積立金と爲し得る見込  
現在資産高八萬五千九拾九圓六錢

## ◎互助會評議員會狀況

五月十九日午前十時、縣廳に於いて評議員會開會、理事一名補缺選舉、會費取扱手續の二件を附議し、其の結果、外山部長を會長に選舉、會費取扱は下記の如く協定し七月分會費徴收より實施することとなつた。

### 入 學 者 數

昨年四月から現在までの退會者は七十三人にして入會者は五百八十二人、差引四百九人の増加入者を上げたことは本會の發展の順調を語るものとみるべきである。

### 外山會長の激勵

前任地、前々任地に於ける互助會の活動をみるに、教育社會の利益のため大なる期待を寄與し得るものである、特に先年來の如く、教員給料不拂とか、寄附強要の如き社會的事件の發生をみるが如き、社會事情に善處するに當つて其の活動の善用さるゝに於ては目他共に利する所多かるべきものと認む、役員諸君は勿論教育關係者は一致協力して

科 目	支出額	豫算額	比較増△減	備 考
一、事業費	七、五七〇、一〇	二、二二〇、〇〇	四、三五〇、一〇	
一、甲慰金	二、〇四〇、〇〇	一、一四〇、〇〇	九〇〇、〇〇	
二、慰藉料	四〇〇、〇〇	一〇〇、〇〇	三〇〇、〇〇	
三、退會金	五、〇九〇、一〇	一、九〇〇、〇〇	三、一九〇、一〇	
二、事務費	一、〇九七、二一	一、一八〇、〇〇	△七、七〇二	
一、總會費	六、二七三	一〇〇、〇〇	△五、一〇三	
二、役員會費	一、八〇〇	五〇、〇〇	△一、三〇〇	
三、俸給	六三、二七六	九六、〇〇	△三二、七二四	
四、手当	三六、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇	△六四、〇〇〇	
五、旅費	五、四〇〇	一〇〇、〇〇〇	△九四、六〇〇	
六、備品費	三三、七〇〇	五〇、〇〇〇	△一六、三〇〇	
七、消耗品費	一、二二二、一五	一〇、〇〇〇	△一、一一二、一五	
八、印刷費	一、四〇〇	一〇〇、〇〇〇	△九八、六〇〇	
九、通信費	一、九一、一五	一、〇〇〇、〇〇〇	△一、〇〇八、八五	
一〇、集金費	一〇一、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇	△一〇〇、〇〇〇	
二、交附金	一〇、三三三	一〇〇、〇〇〇	△八九、六六六	
三、雜費	六、一〇〇	五〇、〇〇〇	△四三、九〇〇	
三、積立金	—	一、三三三、八〇〇	△一、三三三、八〇〇	
四、豫備金	—	五〇、〇〇〇	△五〇、〇〇〇	
計	二、六八二、二一一	一、二二二、〇〇〇	一、四六〇、二一一	

一金貳萬七千七百五拾四圓〇六錢 收入總額  
 一金九千六百四拾八圓拾壹錢 支出總額  
 收支差引壹萬八千〇五圓九拾五錢 殘金

相互扶助の實績をあげらるゝよう一層の努力を希望す。」と  
激勵され、各種の質問應答、懇談佳話の中に閉會を告げた  
時に午後一時四十分。

### 第十九回全國聯合教育會代議員

六月一日、二日、三日の期間開催せらるゝ全國聯合教育  
大會本縣代議員として派遣さるゝ者左の如し

- 理事 荻田萬一郎
- 同 杉崎正義
- 主事 吉田清太郎

### 愛甲郡教育會總會行事概項

(昭和七年五月一日)

(1) 教育會總會 自午前九時至午前十時

- 一、一同着席
- 一、一同敬禮
- 一、開會の辭
- 一、唱歌 (君が代)
- 一、勅語捧讀
- 一、會務及會計報告
- 一、被表彰者

會長 永野氏  
會務 橫溝副會長  
會計 石渡常任幹事

勸績十ヶ年 柳川久和(厚木) 梅澤喜義(高峯)

(2) 青年訓練大會は自午前十時半至十二時迄  
講堂にて行はれた

參加訓練所十五、出席生徒六百五十二名  
式後閱兵分列式が校庭にて舉行された

越野課長、各訓練所主事、全員閱兵す  
防空講演會 自午後一時至午後三時四十分  
講師 陸軍大學校教官、參謀本部員國武少佐

聽講者(午前中の教育會員と青訓生徒其の他を合す)  
青訓生、在郷軍人分會員、其の他一般教員等八百名

- 片野悦(三田) 山口氏次(煤ヶ谷)
- 庄司金吉(南毛利)
- 大矢初治(高峯) 佐藤英司(萩野)
- 勤績二十ヶ年 杉山政治(宮ヶ瀬)
- 勤績廿五ヶ年 橫溝正鼎(厚木)
- 無缺勤三ヶ年 森田壯吉(清水)
- 淺摩タエ(厚木) 安藤初喜(依知)
- 熊坂太松(高峯) 角田茂(清水)
- 鈴木松藏(清水) 青木靜子(玉川)
- 山本留吉(南毛利)
- 石川俊藏(三田)

- 一、會長訓辭
  - 一、知事閣下告辭
  - 一、來賓祝辭
  - 一、被表彰者答辭
- 河邊教務課長  
越野社會教育課長  
齊藤田代小學校々長  
竹井厚木警  
齋藤村三郎(田代)

外來賓、石川縣會議員 大野厚木高等女學校長 竹井厚木警  
察署長 萩原縣視學 澁谷玉川村長 井田少佐(厚  
木中學校配屬將校)

出席會員百五十名

### 叙任辭令

#### 昭和六年度師範學校 卒業生就職學校訓

橫濱尋常訓 濱町尋常訓 江吾田尋常訓 西戸部尋常訓 末吉尋常訓 西前尋常訓 橫濱尋常訓 太田尋常訓 平樂尋常訓 峰尋常訓	橫須賀市 川崎市	福田正作 石井金司 加賀美弘雄 村瀬格 加藤盛美 齋藤正太郎 白井幸次 上小澤常吉 清水源次 小梨治作	旭町尋常訓 幸町尋常訓	久良岐郡	石渡清 佐野貞二	北下浦尋常訓 衣笠尋常訓 船越尋常訓 大津尋常訓 葉山尋常訓 南下浦尋常訓 大津尋常訓 久里濱尋常訓 逗子尋常訓 浦賀尋常訓 田浦尋常訓 走水尋常訓 葉山尋常訓 長井尋常訓 長井尋常訓 南下尋常訓	下山環 石渡寬 東根新 岡本喜市 伊東春男 石渡勝義 小野寺薰 大矢諫 二谷範明 三橋利男 相山安治 高木留吉 菱沼正利
宮前尋常訓 大島尋常訓 大師尋常訓		山本房吉 奥田實 武藤莊三	三浦郡	石川新吉 西村正治	鎌倉尋常訓 大正尋常訓	小關金吾 伊東桂次郎 小柳喜代藏 鳥井健太郎 青柳幸平 小松和夫 倉林和惠	
坂本尋常訓 沙入尋常訓		岩崎義朗 柏木彰	都筑郡	永島秀雄 岩部律郎 小穴久義	玉繩尋常訓 正修尋常訓 川上尋常訓 豊田尋常訓 瀬谷尋常訓		
横濱尋常訓 太田尋常訓 平樂尋常訓 峰尋常訓		田奈尋常訓 田奈尋常訓 田奈尋常訓 田奈尋常訓 都岡尋常訓 義胤尋常訓	武蔵郡	武藤元秀	鎌倉郡		
横濱尋常訓 濱町尋常訓 江吾田尋常訓 西戸部尋常訓 末吉尋常訓 西前尋常訓 横濱尋常訓 太田尋常訓 平樂尋常訓 峰尋常訓		金澤尋常訓 金澤尋常訓 六浦莊尋常訓 金澤尋常訓 六浦莊尋常訓 駒林尋常訓 中原尋常訓 向丘尋常訓 都筑	森橋三郎 本間正二 鹿野孝一 山本豊信 豊田國太郎	森橋三郎 大津尋常訓 葉山尋常訓 南下浦尋常訓 大津尋常訓 久里濱尋常訓 逗子尋常訓 浦賀尋常訓 田浦尋常訓 走水尋常訓 葉山尋常訓 長井尋常訓 長井尋常訓 南下尋常訓	菊池兼吉 下山環 石渡寬 東根新 岡本喜市 伊東春男 石渡勝義 小野寺薰 大矢諫 二谷範明 三橋利男 相山安治 高木留吉 菱沼正利		

小坂尋高訓 遠山 忠  
 中和田尋高訓 森川喜久夫  
 高座郡 清水尋高訓 池田 壽  
 茅ヶ崎尋高訓 石井正雄 關野宇三郎  
 鶴嶺尋高訓 石山彦太郎 吉澤義之  
 座間尋高訓 金山茂 遠藤敏夫  
 瀧谷尋高訓 高下晃平 磯崎 勳  
 小出尋高訓 篠崎 信 熊澤重一  
 麻溝尋高訓 中里健二 瀨戸義夫  
 松林尋高訓 石井繁從 野地 清  
 旭尋高訓 遠藤金松 下曾我尋高訓 石井正夫  
 中郡 湯河原尋高訓 小田原第二尋高訓 熊澤重一  
 平塚高等訓 田邊宏藏 眞鶴尋高訓 宮城野尋高訓 石井正夫  
 比々多尋高訓 鈴木 正 眞鶴尋高訓 眞鶴尋高訓 瀨戸義夫  
 平塚第一尋常訓 眞壁 慎吾 千代尋高訓 國府津尋高訓 細谷福藏  
 高部屋尋高訓 奧津靖二 溫泉尋高訓 片浦尋高訓 武藤好太郎  
 南秦野尋高訓 加藤正一 眞鶴尋高訓 眞鶴尋高訓 二宮貞治  
 東秦野尋高訓 大橋一雄 眞鶴尋高訓 眞鶴尋高訓 小倉信夫  
 太田尋高訓 與野堅磐 眞鶴尋高訓 眞鶴尋高訓 川崎 市  
 平塚第一尋常訓 久保井義雄 眞鶴尋高訓 眞鶴尋高訓 大島尋常訓  
 平塚第一尋常訓 銀代茂邦 眞鶴尋高訓 眞鶴尋高訓 駒林尋常訓  
 西秦野尋高訓 小宮喜久平 眞鶴尋高訓 眞鶴尋高訓 都 筑 郡  
 金目尋高訓 城田三男 眞鶴尋高訓 眞鶴尋高訓 田奈尋高訓  
 大山尋高訓 北村繁男 眞鶴尋高訓 眞鶴尋高訓 新田尋高訓  
 足柄上郡 津久井郡 高下松雄  
 足柄下郡 高下松雄  
 横濱市 立野尋高訓 内田視子  
 横須賀市 峰尋高訓 伏見アイ  
 川崎市 鶴久保尋常訓 吉村静枝  
 川崎市 豊島尋高訓 龍崎ヒサ  
 川崎市 田戸尋常訓 奥津芳子  
 川崎市 大島尋常訓 平山君代  
 川崎市 駒林尋常訓 砂岡登美  
 都 筑 郡 田奈尋高訓 渡邊静江  
 新田尋高訓 新田尋高訓 江澤不二

昭和七年度女子師範  
 學校卒業生就職學校  
 調

中川尋高訓 大塚 壽美 旭尋高訓  
 都田尋高訓 谷口京子 小出尋高訓  
 義胤尋高訓 大森フミ 松林尋高訓  
 市野澤尋常訓 杉澤 正 田名尋高訓  
 三浦郡 座間尋高訓  
 浦賀尋高訓 小澤サト 藤澤尋高訓  
 長井尋高訓 新倉ミツ 明治尋高訓  
 南下浦尋高訓 蛭田リン 吾妻尋高訓  
 西浦尋高訓 新倉キヌ 平塚第三尋常訓  
 葉山尋高訓 指田花子 西秦野尋高訓  
 逗子尋高訓 野口澤子 曾屋尋高訓  
 初聲尋高訓 飯田百合子 東秦野尋高訓  
 鎌倉郡 林 良子 大磯尋高訓  
 正修尋高訓 橋田いま 吾妻尋高訓  
 川上尋高訓 福本春子 足柄上郡  
 鎌倉尋高訓 鈴木初枝 寄尋高訓  
 瀨谷尋高訓 竹田よしの 川村尋高訓  
 豊田尋高訓 淺岡安子 松田尋高訓  
 川口尋高訓 野中 文 吉濱尋高訓  
 寒川尋高訓 西尾百合子 湯河原尋高訓  
 綾瀬尋高訓 矢島濱江 酒匂尋高訓  
 麻溝尋高訓 中島初枝 酒匂尋高訓  
 寒川尋高訓 中島初枝 酒匂尋高訓  
 足柄下郡 石井龜代  
 宮城野尋高訓 岡本スバ  
 足柄尋高訓 塙 文子  
 大窪尋高訓 矢ノ倉静枝  
 愛甲郡 岸 静枝  
 荻野尋高訓 星野ヤエ  
 小鮎尋高訓 青木ヒデ子  
 田代尋高訓 大塚きよ  
 半原尋高訓 安田節子  
 内郷尋高訓 小穴かと  
 串川第二尋高訓 岩田フミ  
 下山芳枝  
 原 與 彌  
 山口敏子  
 市川フミ子  
 林 政子  
 内田須満子  
 湯山シヅ  
 小林梅子  
 石井龜代  
 矢澤シマ  
 露木ヨシ江  
 宮城野尋高訓 菊地 良  
 足柄尋高訓 柳川梅子  
 大窪尋高訓 千葉トミ  
 荻野尋高訓 谷口梅子  
 小鮎尋高訓 窪田ツル  
 田代尋高訓 増島ミサ  
 半原尋高訓 山崎ハマ  
 内郷尋高訓 井上トメ  
 串川第二尋高訓 早川美枝  
 都 筑 郡 都岡尋高訓 北堀利一  
 三浦郡 衣笠尋高訓 井上義雄  
 北下尋高訓 北下尋高訓 栗山彦七  
 鎌倉第二尋高訓 鎌倉第二尋高訓 加城恭二  
 高座郡 高座郡

昭和六年度實業補習  
 學校教員養成所卒業  
 生就職學校調

新磯村立實補助  
大澤尋高訓  
中 郡  
豊田尋高訓  
大野第二尋高訓  
大野第一尋高  
伊勢原町立實補助  
相川尋高訓  
足柄 下 郡  
下中尋高訓  
仙石村立實補助兼仙石  
尋高訓但農業科勤務  
愛 甲 郡  
南毛利尋高訓  
青莪尋常訓  
津 久 井 郡  
中野尋高訓  
牧野尋高訓  
足柄 上 郡  
寄尋高訓  
曾我尋高訓  
井口尋常訓

井上光重  
小川通幸  
矢野晋平  
野島正二  
鈴木徳次  
内藤貞三  
近藤清  
小早川政司  
雲母榮一  
中野鉦次  
森住武夫  
門倉源吾  
石川庄五郎  
佐々木静夫  
瀬戸正明  
根岸定良

### 會計係から

雑誌代の滞りがありますから、至急お送金下さい。代金請求には雑誌代許でなく職員録などのでも全く閉口です。拂込みの速い学校では何によらず即座に送金されるを常とするが、遅いになると一年は愚か何回催促してみても何の音沙汰なしのがある、いやはや集金には閉口〜。

處で四月以後の雑誌は無料ですから御承知下さい。それでお互に助かつた譯だ。こんな事で助かつたなどは餘り大聲で褒められた事ではないのだが、ともかく樂々した。

せめて過去の滞納のないやうにして欲しい但しこれらは極めて少数であることを申添へておく。

### 本誌定價

一部 金貳拾五錢  
一年分前納 金貳圓五十錢

### 本誌廣告料

特別頁 一頁 十圓 半頁 五圓  
普通頁 一頁 五圓 半頁 三圓  
三ヶ月以上連續掲載 三割引  
六ヶ月以上連續掲載 五割引

昭和七年五月二十三日印刷  
昭和七年五月二十五日發行

發行所 横濱市中區日本大通り縣廳教務課内  
神奈川縣教育會  
振替貯金口座東京七三三番

編輯人 横濱市鶴見區東寺尾町千五百八番地  
吉田清太郎

印刷人 横濱市中區住吉町五丁目五十八番地  
鈴木清五

印刷所 横濱市中區住吉町五丁目五十八番地  
横濱活版舎  
(電話長疇町〇七五六番)



横濱  
應接場  
八景圖

平坂

